

PA1000	介護等体験
--------	-------

担当教員	石田 健太郎	受講方法	-
------	--------	------	---

使用テキスト	配本年度
--------	------

『第4版 よくわかる社会福祉施設 教員免許志願者のためのガイドブック』 2016年度～2017年度
『特別支援学校における介護等体験ガイドブック フィリア 新学習指導要領(平成29年公示)版』
全国特別支援学校長会(ジアース教育新社) 2019年度～2020年度
①『これ一冊で安心 実習ガイドブック』齋藤 政子編著(新読書社) 2021年度～
②『イラストでみる社会福祉用語事典 第2版』福祉教育カレッジ(株式会社テコム 出版事業部)
2018年度～
①②はセットで配本

科目概要

本科目においては、教育職員免許状を取得しようとするものが、社会福祉施設等において介護等体験を行う意義の理解を深め、より良い体験を行うことができるようになるために、学習上も目標に示すように課題について理解をするとともに、豊かな人間関係と自己洞察を行うことができるようになることを課題とした学習を行う。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 社会福祉施設等の役割と機能、②利用時・者の特徴と個別ニーズ、③用語内容・生活環境、④ICF(国際生活機能分類)の活用や合理的配慮、についての理解を深める
2. 社会福祉の理念にもとづいた思考と適切な方法によるかかわりや支援を行うことができるようになる
3. 豊かな人間理解と自己洞察にもとづく倫理的態度をみにつける

参考文献

- 『フィリア 新学習指導要領対応』全国特別支援学校長会(ジアース教育新社)
- 『フィリアⅡ 介護等体験 ルールとマナー』全国特別支援学校長会著 2014(ジアース教育新社)
- 『障害児者へのサポートガイド』新井英靖著 2007(中央法規出版)
- 『明日の子供たち』有川浩著 2014(幻冬舎)
- 『福祉社会学ハンドブック—現代を読み解く 98 の論点』福祉社会学会編 2013(中央法規出版)
- 『私たち抜きに私たちのことを決めないで 障害者権利条約の軌跡と本質』藤井克徳 2014(やどかり出版)
- 『社会福祉キーワード 補訂版』平岡公一編 2002(有斐閣)
- 『合理的配慮』川島聡・飯野由里子・西倉実季・星加良司 2016(有斐閣)
- 『第4版よくわかる社会福祉施設 教員免許志願者のためのガイドブック』増田雅暢 2015(全国社会福祉協議会)
- 『障害のある方への接遇マニュアル』東京都心身障害者福祉センター編集 2006 改訂版☆
- 『発達障害者支援ハンドブック 2015』東京都保健福祉局 2015☆
- 『知的障害・発達障害のある人への合理的配慮』坂爪一幸・湯汲英史著 2015(かもがわ出版福祉社会学会 2013)
- 『ICF 国際生活機能分類—国際障害分類改訂版』障害者福祉研究会 2002(中央法規出版)
- 『発達障害の子どもたち』杉山登志郎著 2007(講談社)
- 『ICF(国際生活機能分類)の理解と活用』上田敏 2005(KS ブックレット)きょうされん
- 『社会的養護の課題と将来像』☆
- 各種白書
- ※☆印の付いているものは、ウェブページよりダウンロードが可能です。
- 上記、参考資料以外にも、積極的に調べ学習を行うようにしてください。

PA1010	教育学入門		
担当教員	菱山 覚一郎	受講方法	RT

使用テキスト	配本年度
--------	------

『教育学 -人間科学からの展望【人間性と人間形成の教育学 第2版】』

青木秀雄著(明星大学出版部) 2015年度～

科目概要

教育学というと、学校教育をイメージする人が多い。しかし、教育は私たちの日常的行為である。親子、友人、夫婦、社員間など、意図的もしくは無意図的な教育行為がどこにでも見られる。したがって教育学の対象は、親になるための親学であり、子育て支援、人間形成、次世代文化伝達、企業内等組織文化伝達などの指導・援助活動と学習行為のすべてである。また、より日常的な自己啓発のための自己教育も教育学の対象である。このような身近な教育事象の原理と基本的事項を広範な視野から考察する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 人間の成長・発達と環境との関係を考察し教育学的に説明できる。
2. 人格と教育愛について、受容と指導の違いに留意しつつ説明できる。
3. 経験を重視したカリキュラムの発展と教育改革との関連について、個性重視、ゆとり教育、生きる力、問題解決学習に留意して説明できる。
4. 教育改革と学習指導の方法について、学力問題と教育評価に関連して考察し説明できる。
5. 教育問題と道德教育における困難性について、現代の教育問題であるいじめ、暴力、学級崩壊などの理解を通じて考察し説明できる。
6. 教育学研究における対象論的と主体論的方法について考察し、質的および量的アプローチの方法の基礎を説明できる。

■ 科目の学習要点事項

1. 人間の自然・健康とその社会の発展に基づく人間形成と教育環境
2. 教育的な行為における受容・指導と教育愛
3. 教育の目的と生きる力や確かな学力のためのカリキュラム改革
4. 教育改革と学習指導の方法および指導と評価の一体化
5. 現代の教育問題と道德教育の困難性
6. 教育学研究における対象論的方法と主体論的方法

参考文献

- 『やさしく学ぶ教育原理』佐々木司、熊井将太編著(ミネルヴァ書房)
- 『やさしい教育原理(第3版)』田嶋一、中野新之祐著(有斐閣)
- 『教育原理(第2版)』寺下明著(ミネルヴァ書房)
- 『教育原理入門—30のテーマで学ぶ』岡田昭人編著(ミネルヴァ書房)

評価基準

■レポート評価

レポート課題に関係した内容をテキストから選び、テーマに即してまとめる。文章が理論的に一貫しているかを推敲する。テキストの内容を基本に客観的に論じること。

■科目終了試験評価

評価のポイントは、出題の主旨を理解しキーワードや事項を十分把握して記述することにある。テキストに示された理論を活用せず、自説だけいくら述べ立てても評価されない。そこで試験の準備としても、レポート課題に答える際に解説の各単位毎に示した要点事項の内容を整理し理解を深めておくこと。

PA1020	教育原理
--------	------

担当教員	上坂 保仁	受講方法	RTorSR
------	-------	------	--------

使用テキスト	配本年度
--------	------

『教育原理』 佐々井利夫・樋口修資・廣嶋龍太郎共著(明星大学出版部)

2012 年度～

科目概要

この科目は教職課程における科目でもあることを考慮し、「教育の考え方、理念及び歴史」という科目設置の趣旨を生かした学習内容とする。教育についての考え方、理念の多様性を歴史的な視点を中心に学習し、今日の教育の動向、方向性を考察したい。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 教育の考え方の多様性を理解する。
2. 教育史に影響与えた先人の考え方の理解を深める。
3. 日本教育史についての基本的な知識を習得する。
4. 第二次世界大戦後(昭和 20 年代以降)の学校教育の展開と現状、そして課題を理解する。
5. 自分自身の教育観を深める。

■ 科目の学習要点事項

1. 教育についての多様な考え方の学習
2. 教育史の学習——西洋と日本
3. 戦後日本における学校教育の考え方の変遷
4. 今日の学校教育の課題と展望

参考文献

テキスト各章末に記載。(また、最新の「学習指導要領」についても必要に応じて確認されたい。)

評価基準

■ レポート評価

課題の解説を読んで課題の趣旨を理解し、テキストの関連箇所を学習して解答すること。

■ 科目終了試験評価

テキストを踏まえた学習をしているか、レポート課題についての考察が身についているか、問題の要求するところにたいして適切に解答されているか、などがポイントである。

PA1030	教育の制度と経営
--------	----------

担当教員	樋口 修資	受講方法	RT
------	-------	------	----

使用テキスト	配本年度
--------	------

『教育の制度と経営 15 講』 樋口修資著(明星大学出版部)

2020 年度

『第 2 版 教育の制度と経営 15 講』 樋口修資著(明星大学出版部)

2021 年度～

科目概要

わが国の学校教育制度の構造と特質を明らかにしつつ、学校が公教育の実現に向けて、組織としてまとまった活動を実施・展開することの重要性について考察します。

具体的には、憲法・教育基本法に基づく学校教育の編成原理、国と地方の役割分担と教育委員会制度、学校制度・就学制度の基本的枠組み、学校の組織編制と管理運営の在り方、教員の職務と身分、教育課程の編成・実施、生活指導・生徒指導の在り方、学校の保健安全管理などの諸課題について基礎的な理解を図り、必要な知識を幅広く習得します。

※本科目の学修に当たっては、教科書はもとより、参考図書も十分に活用しながら、主体的に学ぶ態度をもって、科目内容の知識と理解を深めるよう努めること。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 学校を中心とした教育制度と経営に関する状況・課題と将来展望、また公教育機関としての学校の社会的機能と役割等を自分自身の課題として理解し、それら基本的知識を身に付け、知識理解の基に説明できる。
2. わが国の教育制度・就学制度の基本的枠組み、学校の組織編制と管理運営の課題、教員の身分と服務、教育課程編成の意義と考え方、生徒指導の意義と役割などについて関心を持ち、それらについて必要な知識を身に付け、知識理解の基にきちんと説明できる。

■ 科目の学習要点事項

1. 憲法・教育基本法に基づく学校教育の基本的あり方
2. 教育における地方分権の意義と教育委員会制度の役割
3. 学校教育制度・就学制度の基本的仕組み
4. 学校の組織編制と管理運営の在り方
5. 学習指導要領に基づく教育課程編成・実施の意義
6. 生徒指導の基本的あり方
7. 学校保健安全管理の在り方

参考文献

「最新 教育の行政・制度と学校の管理運営」樋口修資著(明星大学出版部)

「教育の最新事情」樋口修資・吉富芳正・林一夫共著(明星大学出版部)

「教育行政学」河野和清編著(ミネルヴァ書房)

評価基準

■レポート評価

レポートの作成にあたっては、レポート課題が求める学習の要点を正しく理解し、その要点を中心に所定の文字数にまとめる。テキストの内容を基本にして客観的に論じること。参考図書等を図書館で閲覧して内容を深めると更によい。

■科目終了試験評価

科目終了試験は、科目の学習要点事項に示されている内容がどれくらい到達しているかを測るものである。テキストに示された理論を活用せず、自説のみ並べ立てても評価されない。それぞれの学習要点にかかわるテキストの記述を中心に、レポート課題に解答する際整理し、重要事項について理解を深めておくこと。

PA1040	教職入門		
担当教員	菅野 秀二	受講方法	RT

使用テキスト	配本年度
--------	------

『教職入門—専門性の探究・実践力の錬成』青木秀雄編(明星大学出版部) 2014年度～2017年度
『第2版教職入門』青木秀雄編(明星大学出版部) 2018年度～

科目概要

教育と教職との関係を、主に専門性と実践力の視点を踏まえ、それら全般について論述する。教員養成の歴史を概観し、不安定な教師の立場における教職のアイデンティティの確立の困難性にも言及する。教師に求められる資質・能力と現代の教育改革、子どもを取り巻く環境について検討し、教師の役割と責任、教育愛などをめぐって、今後の学校と教師の課題について探求する。

その基本は、教師の人間としての在り方、専門職としての在り方を考えることになる。1回の人生を生きる子どもたちのために、教師には何ができ、何をすべきであるかを模索したい。そのために教師は、どのように成長し、またすべきなのか考察したい。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 現代のわが国の子どもの教育について、どのように学び、どのようにあるべきかを踏まえ、子どものために教師はどうあるべきかを考え、理解する。
2. 現代における教育者のあり方を考える。
3. 教師の仕事を理解する。
4. 子どものため、またよりよい学びと国家社会の形成のために、教師のあり方が重要であることを知る。
5. 教育者として、人間としての学びと成長の必要性を考える。

■ 科目の学習要点事項

1. 教育者についての基本的な理解
2. 教員養成の重要性
3. 教師の役割と責任
4. 教職の専門性
5. 現代の教師に求められている資質・能力
6. 自分の目指す教師像

参考文献

森下恭光編著(2009)『第2版 教師論—教職とその背景』明星大学出版
青木秀雄編(2013)『教職実践演習—磨きあい高めあい続ける熱意ある教師に』明星大学出版
姫野完治(2013)『学び続ける教師の養成—成長観の変容とライフヒストリー』大阪大学出版会
竹村哲(2012)『自己と関わりの創造学—セルフスタディの教育研究』大学教育出版
油布佐和子編著(2015)『現代日本の教師 — 仕事と役割 —』一般財団法人 放送大学教育振興会

評価基準

■レポート評価

レポートの作成にあたっては、レポート課題が求める学習の要点を正しく理解し、その要点を中心にまとめること。その際、レポートの構成にあたっては、論理的に記述すること。『履修の手引』参照。

■科目終了試験評価

科目終了試験は、科目の学習要点事項に示されている内容がどれくらい達成されているかを判定するためである。出題範囲は広いが、それぞれの学習要点に関わるテキストの記述を整理し、重要事項について理解を深めておくこと。評価のポイントは、出題の主旨を理解し、キーワードや事項を捉えて正確に説明ができているかにある。科目の学習要点事項を踏まえていない場合には、自らの経験や自説をいくら述べても評価されない。したがって、試験の採点は、「設題の要点を正しく理解し、その要点に即して論理的に記述する」内容面と「量的にもある程度の分量を記述すること」の両面から採点を行うことにしている。

PA1070	発達心理学		
担当教員	西本 絹子	受講方法	RTorSR
使用テキスト	『子どもの発達心理学』高橋道子・藤崎真知代・仲真紀子・野田幸江著(新曜社)		配本年度
			2019 年度～
科目概要			
人は生物学的な基盤の上に、社会文化的環境との相互作用を行いながら、生涯にわたって自己を変容させ発達し続ける。そのしくみを理解するための基本的な諸理論を学ぶ。特に、著しい変化を遂げる乳幼児期から学童期を中心として、基本的な発達のプロセスを理解する。子どもを教え育てる教師・保育者として、発達の視点から人間の行動と心を理解するために必要な基礎知識を習得する。 その他必要である、または期待される主体的学びの概要としては、現代の子どもの育ちや、子どもをめぐる現代的な様々の問題や事象に対して、積極的に関心を持ち、知識を得て思考することである。 予習・復習に必要な時間はそれぞれ 1 時間 30 分である。			
学習上の目標			
■ 科目の到達目標			
1. 発達の概念の基礎に関する知識を得る。 2. 生涯にわたる発達段階をエリクソンとピアジェの理論を通して理解する。 3. 乳児期・幼児期・学童期の発達の特徴を認知・社会性・自我の発達の側面から理解する。 4. 環境(教育)は発達にどのように関わるかに関して理論的知識に基づいて思考することができる。 5. 現代の社会事情のなかでの子どもの育ちに関して積極的に関心を向ける態度を身に付ける。			
■ 科目の学習要点事項			
1. 遺伝と環境・新生児の未熟さと有能さ・臨界期概念と人の発達の可塑性・発達を支える社会文化的環境とは何か・生態学的環境システム 2. エリクソンの心理社会的発達段階論・発達段階とは何か 3. ピアジェの発生的認識論 4. 乳児期の発達:運動発達の道筋・認知の特徴・人との関わりとコミュニケーションの発達・情緒の発達・愛着形成 5. 幼児前期の発達:認知の特徴・ことばの発達・対人関係の広がり・遊びの発達・自立性の獲得・自己意識の発達 6. 幼児期後期:認知の特徴・集団のなかの発達・自己理解と他者理解 7. 学童期:認知の特徴・思考と言語・友人と学級集団・自己形成と社会化 8. 発達と教育:最近接領域の考え方・文化と集団の影響			
参考文献			
①『問いからはじめる発達心理学』坂上裕子,山口 智子,林 創,中間 玲子編著(有斐閣、2014) ②『現代心理学入門2 発達心理学』無藤隆・久保ゆかり・遠藤利彦 著(岩波書店、1995) ③『よくわかる発達心理学』無藤隆, 岡本 祐子,大坪 治彦,編著(ミネルヴァ書房、2009) ④『子どもとことば』岡本夏木 著(岩波書店、1982) ⑤『まなざしの誕生—赤ちゃん学革命』下條伸輔 著(新曜社、2006)			

■レポート評価

＊レポート記述に関して次の観点から評価する。

1. テキストの内容・用語・概念を正しく理解しているか。
2. 課題が要求している内容に沿って要点がまとめられているか。

＊以下のようなレポートは再提出となる。

1. 規程の分量が守られていない。
2. ほとんどがテキストやインターネット上のサイトの丸写しであると思われるもの。
3. 他の受講生のレポートと同じかほとんど類似しているもの。
4. 誤字・脱字等が著しく多いもの、あるいは日本語の文章として逸脱しているもの。

■科目終了試験評価

＊試験に関しては次の観点から評価する。

1. テキストの内容・用語・概念を正しく理解しているか。
2. 問題内容に的確に沿った解答であるか。
3. 誤字・脱字等がなく、読みやすい字で書かれ、日本語の文章として適切であるか。

PA1080	特別なニーズ教育総論		
担当教員	森下由規子	受講方法	RT

使用テキスト	配本年度
--------	------

『教員と教員になりたい人のための特別支援教育のテキスト』小林倫代編著(学研) 2019 年度～

科目概要

本科目では、教員を目指す学生を対象に、特別支援教育や共生社会の推進に伴う社会情勢の知見を得るとともに、発達障害および軽度知的障害などの特性の理解と対応方法について学びを深める。

また、貧困や虐待などの多様な状態像を示す幼児、児童・生徒への知見を深め、学級経営や教科指導などにおいて子への配慮と具体的対応方法について学ぶ。

学習においては、教職課程コアカリキュラムの全体目標および一般目標の達成を目指す。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 幼稚園・小学校・中学校・高等学校に在籍する障害のある幼児、児童・生徒に対し、障害特性及び障害による学習上・生活上の困難さについて理解を深める。
2. 共生社会とインクルーシブ教育システムについて学ぶ。
3. 発達障害の基礎的理解を学び、気づきとアセスメント力を高める。
4. 様々な障害の特徴と支援方法を学び、二次障害の予防に努める工夫を考える。
5. 特別支援学級、通級による指導・支援方法についての知識を深める。
6. 自立活動の役割と個別の教育支援計画、個別指導計画について理解を深める。
8. 保護者との連携や他機関との連携の方法を学ぶ。
9. 特別支援教育コーディネーターの役割と専門性について学ぶ。

■ 科目の学習要点事項

1. 特別支援教育の理念と制度
2. 特別支援教育におけるインクルーシブ教育システム
3. 通常の学級担任の気づきとアセスメント
4. 発達障害の心理的特性の理解(LD ADHD ASD 軽度知的障害 等)
5. 二次障害の理解と対応
6. 特別な教育的ニーズの理解と対応(貧困や虐待 等)
7. 特別な指導「自立活動」の理解
8. 通級による指導の実際
9. 特別な支援学級での指導の実際
10. 特別支援教育コーディネーターと校内支援
11. 個別の教育支援計画と個別指導計画

参考文献

『特別支援教育の基礎・基本』独立行政法人国立特別支援教育総合研究所(ジアース教育新社)
 アクティバート教育学『特別支援教育』廣瀬由美子・石塚謙二編著(ミネルヴァ書房) * 近日発行

評価基準

■レポート評価

レポート作成にあたっては、レポート課題の趣旨を理解し、テキスト(参考文献を含む)を熟読したうえで、テキストの記述を転記するのではなく、重要事項を押さえて自分なりの視点から考察し、論理的に記述するようにすること。

■科目終了試験評価

科目終了試験は、テキストの構成内容の全体にわたって出題している。評価は出題の趣旨に沿った重要事項(キーワード)を盛り込んで、論理的かつ具体的に説明されているかにより行う。

PA1090	子どもの生活と遊び(運動遊び)		
担当教員	神代 洋一	受講方法	SR

使用テキスト	配本年度
--------	------

『安心感と憧れが育つひと・もの・こと』斎藤政子編著(明星大学出版部)

2019 年度～

科目概要

遊びを取り巻く環境が大きく変化して行く中で、子どもの心身にどのような影響が出ているのかを知る。子どもの権利条約31条とその詳細な解説であるゼネラルコメントNo.17について学ぶ。乳幼児期から児童期にかけての遊びについて学び、保育者・教師の役割について考える。テキストの5章を中心に学びます。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

- 1.遊びを取り巻く環境と子どもへの影響について知る
- 2.子どもの権利条約31条について理解する
- 3.乳幼児期から児童期の遊びを学び、保育者・教師の役割を考える。

■ 科目の学習要点事項

- ・変化する遊び環境と心身への影響の理解する(第5章1項)
- ・遊びとは何かについて学ぶ(第5章2項)
- ・乳幼児期から児童期の遊びについて学び保育者・教師の役割を考える(第5章3項および4項)
- ・子どもの権利条約について学ぶ(第5章5項)

参考文献

- ① 子どもの権利条約ゼネラルコメントNo.17(子どもと文化のNPO Art.31)
- ② 「遊びと人間」ロジェ カイヨワ(講談社学術文庫)
- ③ 「遊びが学びに欠かせないわけ」ピーター・グレイ(築地書館)
- ④ 「脳をきたえるじゃれつき遊び」正木健雄(小学館)

評価基準

■ レポート評価

- ・テキストの内容を理解し、自分なりの考えをまとめていること
- ・求める課題がきちんと記述されていること
- ・誤字脱字がないこと
- ・段落に分け、ポイントがおさえられていること
- ・1, 500字以上2, 250字以内であること

PA2030	教育心理学		
担当教員	西本 絹子	受講方法	RT

使用テキスト	配本年度
--------	------

『児童生徒理解のための教育心理学』古屋喜美代・関口昌秀・荻野佳代子編著(ナカニシヤ出版)
2017 年度～2019 年度
『理論と実践をつなぐ教育心理学』杉本明子・西本絹子・布施光代編著(みらい)
2020 年度～

科目概要

本講義は、教育心理学の基本的な知識を習得するとともに、教育現場の諸問題を教育心理学的な観点から理解し考察することを目的とする。具体的には、1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達、2) 学習と学習意欲のメカニズムと教授方法、3) 教育評価の目的と方法、4) 知的能力とその測定方法、5) 学級集団の特徴、6) 問題行動の理解と支援、7) 特別な教育ニーズを持つ子供への支援について学習し、教育現場の様々な問題との関係性について理解・考察するために必要な基本的な知識を修得する。

予習・復習に必要な時間はそれぞれ 1 時間 30 分である。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 授業で取り扱うトピックに関する知識を身に付ける。
2. 授業で取り扱うトピックについて理解を深め、自分自身で思考する姿勢を身に付ける。
3. 授業で取り扱うトピックを教育現場の様々な問題と関連付けて考察し、また、教育現場における諸問題に対して積極的関心を向ける態度を身に付ける。
4. 子どもへの教育・発達支援に関して、心理学的な視点から判断できるようになる。

■ 科目の学習要点事項

1. 発達の基本: 発達を規定する要因・発達段階・発達課題
2. 発達の諸理論: アタッチメントの理論、エリクソンの心理社会的発達段階論・認知発達(ピアジェ理論、心の理論)・社会性の発達(道徳性の発達、自己概念と自尊感情の発達)
3. 学習のメカニズムと学習指導: 学習の諸理論(行動主義、観察学習)・学習指導の諸理論
4. 動機づけのメカニズム(外発的動機づけ、内発的動機づけ、期待—価値モデル、原因帰属、自己効力)
5. 教育評価の目的と方法(知能指数、様々な評価方法)
6. パーソナリティと知能: パーソナリティの理論・知能の構造・発達と測定法(知能検査)
7. 学級の心理学: 学級集団の特徴・子ども同士の関係・リーダーとしての教師
8. 問題行動の理解と支援: いじめ・不登校・非行
9. 特別な教育ニーズをもつ子供への支援: 発達障害・特別支援教育

参考文献

1. 『絶対役立つ教育心理学 実践の理論、理論を实践』藤田哲也編著(ミネルヴァ書房、2007)
2. 『初めて学ぶ教育心理学』吉川成司・関田一彦・鈎治雄編著(ミネルヴァ書房、2016)
3. 『教育心理学Ⅰ: 発達と学習指導の心理学』大村彰道(東京大学出版会、2002)
4. 『教育心理学Ⅱ: 発達と臨床援助の心理学』下山晴彦(東京大学出版会、2004)
5. 『やさしい教育心理学 第5版』鎌原雅彦・竹綱誠一郎著(有斐閣、2019)

評価基準

■レポート評価

- ・課題の趣旨に合致した解答になっているか。
- ・教科書、参考文献などを参照し、適切な記述内容になっているか。
- ・明確な表現を用いて、具体的かつ論理的に論述されているか。

■科目終了試験評価

- ・設問の意図に合致した解答になっているか。
- ・設問に対応した学習内容を理解し、適切に説明できているか。
- ・明確な表現を用いて、具体的かつ論理的に論述されているか。

PA2040	教育哲学
--------	------

担当教員	上坂 保仁	受講方法	RT
------	-------	------	----

使用テキスト	配本年度
--------	------

『教育思想史』 小澤周三 他著(有斐閣)

2011 年度～

科目概要

なぜ人間には教育が必要なのか、さまざまな教育思想を通して教育の本質を追求する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

教育の内容、方法、制度、そのコントロールの仕組み等々を含めて、包括的で体系的な考えが教育思想である。したがって、教育思想は、その時代の社会状況とも、政治思想や社会思想とも深くかかわっており、その関連において明らかにされなければならない。

■ 科目の学習要点事項

1. 教育思想の源流
2. ルネサンスと教育思想
3. 近代の教育思想
4. 現代の教育思想

参考文献

今井康雄編 『教育思想史』有斐閣。

評価基準

■ レポート評価

レポート課題が求める学習の要点を正しく理解し、その要点をまとめられているか。

■ 科目終了試験評価

科目終了試験は、「科目の到達目標」に示されている内容にどれくらい達しているかを測るものであります。テキストに示された基本的な内容を活用せずに、自説のみを展開しても評価となりません。科目の学習要点事項にかかわるテキストの内容を中心に、重要事項について説明できるように準備しましょう。評価の主なポイントは、出題の趣旨を理解し、適切に重要事項やキーワードを用いて的確に説明できているかという諸点となります。

PA2050	教育社会学		
担当教員	須藤 康介	受講方法	RT

使用テキスト	配本年度
--------	------

『教育問題の「常識」を問い直す 第2版』須藤康介(明星大学出版部)

2020 年度～

科目概要

近年の「教育問題」に関する教育社会学の研究知見を学び、子供・家庭・学校が抱えているさまざまな問題を、常識に捉われずに多面的に考察するスキルを身につける。現代の学校の中では何が起きているのか。学校の外では何が起きているのか。両者はどう関係しているのか。教育の役割や課題、そして今後の在り方について社会学的に検討する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

世の中の教育論には、十分な根拠を伴わず、なんとなくの印象で語られているものが多い。本科目を通して、それらを批判的に検討する力を身につけてほしい。キーワードは「教育問題」「社会問題」「隠れたカリキュラム」「格差」「脱常識」である。

■ 科目の学習要点事項

1. 教育とは何か — 学校は何のためにあるのか？
2. いじめ — いじめはなぜ起こるのか？
3. 不登校 — 不登校は心の病なのか？
4. 学級崩壊 — 学級崩壊の原因は教師の質低下？
5. 少年非行 — 凶悪化する少年犯罪？
6. 友人関係 — コミュニケーション能力って何？
7. 学力問題 — 学力格差はなぜ生じるのか？
8. 就職 — 若者はなぜ就職できないのか？
9. ジェンダー — 男らしさ・女らしさは必要か？
10. 外国人 — 教室の国際化にどう向き合うか？
11. 教師 — 教師の仕事はオトクなのか？
12. 家族 — 現代の家庭の特徴とは？
13. 学歴 — 高学歴者はなぜ高い収入を得るのか？

参考文献

荻谷剛彦ほか 2010『新版 教育の社会学』有斐閣アルマ。
 広田照幸・伊藤茂樹 2010『教育問題はなぜまちがって語られるのか？』日本図書センター。
 若槻健・西田芳正編 2010『教育社会学への招待』大阪大学出版会。

評価基準

■レポート評価

指定の形式で書かれているか、テキストの内容をふまえているか、自分のオリジナルな考えが示されているか、の三つの観点から可否を判定する。

■科目終了試験評価

論述問題を出題する。教育社会学の研究知見を学習しているか、教育現象を社会的に考察することができているか、の二つの観点から評価を行う。

PA2060	比較教育制度		
担当教員	樋口 修資	受講方法	RT

使用テキスト	配本年度
--------	------

『世界の学校』 二宮皓編著(学事出版) 2011 年度～2014 年度
『新版 世界の学校－教育制度から日常の学校風景まで－』 二宮皓編著(学事出版) 2015 年度～

科目概要

公教育制度は、それぞれの国の歴史的・社会的・文化的文脈の中で形成される「特性」を有するとともに、「人づくり」をねらいとする社会的制度装置としての「共通性」を有しているものであり、諸外国の教育制度を比較研究することを通じて、わが国の教育の成果と課題についての理解と認識を深めさせる。

※本科目の学修に当たっては、教科書はもとより、参考図書も十分に活用しながら、主体的に学ぶ態度をもって、科目内容の知識と理解を深めるよう努めること。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 比較教育の意義について理解が深まる。
2. 我が国の学校制度に照らして、主要諸外国の学校制度についての知識と理解の基に説明できる。
3. 主要諸外国の学校教育が抱える問題点と改革の方向についての知識と理解の基に説明できる。
4. 我が国の学校教育について、諸外国の教育改革の動向を踏まえ、直面する課題を把握するとともに、改革の方向について考察し、教育改革の在り方についての理解が深まる。

■ 科目の学習要点事項

1. 比較教育の視座
2. 英国の教育改革の動向
3. 米国の教育改革の動向
4. フランス・ドイツにおける教育改革の動向
5. フィンランドにおける教育の特色とその成果

参考文献

『比較教育学の基礎』田中圭治郎編著(ナカニシヤ出版)
『比較国際教育学』石附実編著(東信堂)
『諸外国の教育改革の動向』文部科学省(ぎょうせい)
『海外の教育改革』坂野慎二、藤田晃之編著(放送大学教育振興会)

評価基準

■ レポート評価

レポート課題が求める学習の要点を理解しまとめること。

■ 科目終了試験評価

基礎的な学習事項を理解し、出された問題に適切に答えているかどうかを評価する。

PA2062	諸外国の教育
--------	--------

担当教員	樋口 修資	受講方法	RT
------	-------	------	----

使用テキスト	配本年度
--------	------

『新版 世界の学校－教育制度から日常の学校風景まで－』 二宮皓編著(学事出版)

2019 年度～

科目概要

公教育制度は、それぞれの国の歴史的・社会的・文化的文脈の中で形成される「特性」を有するとともに、「人づくり」をねらいとする社会的制度装置としての「共通性」を有しているものであり、諸外国の教育制度を比較研究することを通じて、わが国の教育の成果と課題についての理解と認識を深めさせる。

※本科目の学修に当たっては、教科書はもとより、参考図書も十分に活用しながら、主体的に学ぶ態度をもって、科目内容の知識と理解を深めるよう努めること。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 比較教育の意義について理解が深まる。
2. 我が国の学校制度に照らして、主要諸外国の学校制度についての知識と理解の基に説明できる。
3. 主要諸外国の学校教育が抱える問題点と改革の方向についての知識と理解の基に説明できる。
4. 我が国の学校教育について、諸外国の教育改革の動向を踏まえ、直面する課題を把握するとともに、改革の方向について考察し、教育改革の在り方についての理解が深まる。

■ 科目の学習要点事項

1. 比較教育の視座
2. 英国の教育改革の動向
3. 米国の教育改革の動向
4. フランス・ドイツにおける教育改革の動向
5. フィンランドにおける教育の特色とその成果

参考文献

『比較教育学の基礎』田中圭治郎編著(ナカニシヤ出版)

『比較国際教育学』石附実編著(東信堂)

『諸外国の教育改革の動向』文部科学省(ぎょうせい)

『海外の教育改革』坂野慎二、藤田晃之編著(放送大学教育振興会)

評価基準

■ レポート評価

レポート課題が求める学習の要点を理解しまとめること。

■ 科目終了試験評価

基礎的な学習事項を理解し、出された問題に適切に答えているかどうかを評価する。

PA2070	環境教育論		
担当教員	篠山 浩文	受講方法	RT

使用テキスト	配本年度
『学校環境教育論』小玉敏也・福井智紀編著(筑波書房)	2011 年度～

科目概要

現代の環境教育は、(1)国際会議が提唱する「持続可能な開発のための教育(ESD)」を基盤とした環境教育概念の変化、(2)国内の環境教育の整備、(3)民間団体・NPO 主体の多様な教育と拡充、といった三大潮流の渦中に存在する。このような社会情勢において、教育関係者は環境教育とどのように向き合い、どのような教育活動を展開していくのか。

さらに、子どもと学校と社会をどのようにつなぐのか。本科目は、これらの問いに対して受講生自身で考える力を身につけるものである。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 現代の環境教育をめぐる潮流を理解する。
2. ESD の理念、必要性およびその問題点について考える。
3. 環境教育の実践事例を知る。
4. サイエンス・コミュニケーションの意義と現状を知る。
5. 環境教育とどのように向き合い、どのような教育活動を展開していくのか。さらに、子どもと学校と社会をどのようにつなぐのか。これらの問いに対する考察を自分自身で表現することができる。

■ 科目の学習要点事項

1. 持続可能な開発のための教育(ESD)とは
2. 小学校、中学校、高等学校における実践事例
3. 理科における環境教育、社会科における環境教育
4. 「ESD の 10 年」と今後の課題
5. サイエンス・コミュニケーションと環境教育
6. 子どもと学校と社会をつなぐ環境教育の展望
7. 環境関連事項とそれらの授業における展開

参考文献

- 『現代環境教育入門』降旗信一、高橋正弘編著(筑波書房)
『自然保護教育論』小川潔、伊藤静一、又井裕子編著(筑波書房)
『生物資源を活かしたまちづくりー山武町バイオマスタウン構想からの発信ー』篠山浩文著(千葉日報社)

評価基準

■ レポート評価

テキストの内容を理解した上で、自分の考えを記述していること。

■ 科目終了試験評価

テキスト、レポート課題を試験範囲とする。出題テーマに対して自分の意見や考えが論理的に記述されていること。

PA2080	健康と食育
--------	-------

担当教員	笹原 千穂子	受講方法	RT
------	--------	------	----

使用テキスト	配本年度
--------	------

『基礎からわかる・授業に活かせる 食育指導ガイドブック』
中村丁次・田中延子 監修(丸善)

2011 年度～

科目概要

現在の児童生徒の食生活や心身の健康状態を調査結果から把握し、問題点を明らかにする。また食育基本法成立の背景と内容について学び、食育の考え方を理解する。さらに学校現場における食育の実践例を学び、より効果的に食育を推進する為の方法について学習する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 現在の児童生徒の生活習慣や食習慣の問題点を挙げることができる。
2. 食育基本法成立の背景と内容について説明できるようになる。
3. 生活習慣病の原因や対策について考え、生涯の食育について検討できる。
4. 食の安全や安心の指導事項について説明ができる。
5. 食育の実践例を学び、成長段階に応じた効果的な食育指導法を考案できる。

■ 科目の学習要点事項

1. 健康と食習慣との関係
2. 食育の考え方
3. 食育基本法の背景と内容
4. 生活習慣病予防と食事、身体活動
5. 子供の食育指導
6. 学校の食育と家庭の食育
7. 食の安全・安心の指導
8. 学校現場での食育実践例

参考文献

『食育実践ハンドブック 第2版』篠田信司、原美津子、長島和子編(三省堂)

『「食育」ってなに?』武見ゆかり編著(コープ出版)

『楽しく食育』砂田登志子著(潮出版社)

評価基準

■ レポート評価

課題についてテキストの該当箇所を熟読し、関連図書等を調べた上で、自分なりの考察や検討が十分行われているか。エビデンスに基づいた理論が展開されているかという観点から評価する。

テキスト等の丸写しや他人のコピーと思われるような不正レポートは一切認めない。

■ 科目終了試験評価

出題の意図を理解して、キーワードを含めた適切な解答が記述されているか。

客観的事実から導き出された自分なりの考え方を説得的に述べられているかという観点から評価する。

PA2090	臨床心理学		
担当教員	金子 真人	受講方法	RTorSR

使用テキスト	配本年度
『保育と教育に生かす臨床心理学』(ミネルヴァ書房) 『面白いほどよくわかる！ 臨床心理学』(西東社)	2011 年度～2016 年度 2017 年度～

科目概要

人間発達という視点から幼少期・青年期・成人期の心理的障害と適応の問題を考える。そして、臨床心理学が実践の学であることを知り、そのためには科学的な論拠が必要であることを理解する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 臨床心理学とは何かを具体的に考える。
2. それぞれの発達段階が抱える心理的障害について理解する。
3. 診断法(心理アセスメント)の基礎を理解する。
4. 心理療法(心理学的援助)の基礎を理解する。

■ 科目の学習要点事項

1. 臨床心理学が対象とする対象の領域を理解する。
2. 発達臨床心理学・教育臨床心理学の観点から対象となる障害の診断・分類・援助を理解する。

参考文献

『発達臨床心理学ハンドブック』(ナカニシヤ出版)
『臨床心理学』伊藤良子編(ミネルヴァ書房)
『よくわかる臨床発達心理学』(ミネルヴァ書房)

評価基準

■ レポート評価

- ① 科目の到達目標がきちんとレポートにまとめられているか。
 - ② 具体的な事例やデータを基に説明されているか。
 - ③ 使用されている用語が正しく理解されているか。
- 以上の観点から評価します。

■ 科目終了試験評価

- ① 問題の意味を理解し専門用語の定義が正しく説明できることが重要である。
- ② 学習要点事項を整理し理解することが必要である。具体的には臨床心理学の対象領域の主要学説の基本的理解が求められる。
- ③ 試験の準備として、レポート課題と科目の学習要点事項の内容について理解を深めておくこと。

PA2100	人材教育論
--------	-------

担当教員	石戸 康弘	受講方法	RT
------	-------	------	----

使用テキスト	配本年度
--------	------

『人材開発マネジメントブック』福澤英弘著(日本経済新聞出版社)

2011 年度～

科目概要

産業社会で働くとはどういうことか。その意味を考えながら人材教育のあり方を学ぶ。企業がどのような人材能力を求め、どのような考え方で人材開発をおこなっているか、実際の姿と理論を把握する。これらを踏まえて、自分なりの人材教育論を形成していく基礎を養う。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 現代の産業社会での働く意味が説明でき、その上で自分の考えを表明できるようになる。
2. 企業の第一線の現場で求められている人材能力が整理でき、説明できるようになる。
3. 人材開発の基本的な仕組みが理解できる。

■ 科目の学習要点事項

1. 日本における人材開発とその変化
2. 企業における学習プロセスと学習理論
3. 人材開発の組織的な取り組み方
4. 自己啓発とキャリア開発

参考文献

『「良い仕事」の思想』杉村芳美著(中公新書)

『個人尊重の組織論』太田肇著(中公新書)

評価基準

■ レポート評価

テキストで学んだことを整理しながら、必要に応じ参考文献にも言及した上で、どれだけわかりやすく自分の考察を論じているか、の観点から評価する。

■ 科目終了試験評価

科目の学習要点事項に示されている内容がどれくらい到達しているかを主眼に評価する。テキストで学んだことを基本に説明した上で、「論じてください」という出題については、自分の考えを補足することも評価の対象となる。

PA2110	企業内教育論		
担当教員	石戸 康弘	受講方法	RT

使用テキスト	配本年度
『人材開発マネジメントブック』福澤英弘著(日本経済新聞出版社)	2011 年度～

科目概要

企業、行政をはじめ、そこにおける個人・集団・組織は、いかにしたら元気になるか。現在の産業社会では、「活性化」が叫ばれ、その教育論が求められている。その具体的教育内容が「人材開発」と「組織開発」である。この科目では人材開発のなかの集合教育の設計と具体的な展開方法を学ぶ。併せて、組織開発の教育のあり方についても理解を深める。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 人材開発体系が理解でき、集合教育の進め方がわかる。
2. 人材開発に携わる人材像が理解でき、企業や行政組織等での教育業務の見通しが持てる。
3. 人材開発と組織開発の関係が理解でき、組織開発教育の基本的あり方がわかる。

■ 科目の学習要点事項

1. 人材開発計画
2. 企業内集合研修の企画・運営
3. 人材開発の担い手
4. 組織開発のあり方

参考文献

1. 『人は仕事で磨かれる』丹羽宇一郎著(文藝春秋)
2. 『場のマネジメント』伊丹敬之著(NTT 出版)
または、『場の論理とマネジメント』伊丹敬之著(東洋経済新報社)
3. 『住民・行政・NPO 協働で進める 最新 地域再生マニュアル』山浦晴男著(朝日新聞出版)
4. 『目標管理活用学』中嶋哲夫著(経営書院)

評価基準

■ レポート評価

テキストで学んだことを整理しながら、参考文献にも言及した上で、どれだけわかりやすく自分の考察を論じているか、の観点から評価する。

■ 科目終了試験評価

科目の学習要点事項に示されている内容がどれくらい到達しているかを主眼に評価する。テキストで学んだことを基本に説明した上で、「論じてください」という出題については、自分の考えを補足することも評価の対象となる。

PA2120	障害者教育総論		
担当教員	森下 由規子	受講方法	RT

使用テキスト	配本年度
--------	------

『特別支援教育—理解と推進のために—』石部元雄・柳本雄次編著(福村出版) 2011 年度～2020 年度
『特別支援教育の基礎・基本 2020』独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所
著作(ジヤース教育新社) 2021 年度～

科目概要

本科目では、障害のある子ども一人一人の教育的ニーズに応じた指導および支援を行う、障害児教育(特別支援教育)について学ぶ。

具体的には、「特殊教育」から「特別支援教育」への障害児教育の転換と進展について、特別支援教育の対象、基本的な考え方とシステム、教育課程や個別の教育支援計画・個別指導計画等についての基本的知識を学ぶ。さらに、各種障害の実態把握に基づき、特別支援学校、小・中学校等の通常の学級や特別支援学級、通級指導における障害児の教育・支援の在り方と実際について認識を深める。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 特別支援教育推進の基本的な視点について理解を深める。
2. 特別支援教育における学校内外の連携協力体制について学ぶ。
3. 特別支援教育コーディネーターについて基本的な知識を学ぶ。
4. 各種障害と、特別支援学校の教育課程について知識を深める。
5. 特別支援学級、通級による指導における教育課程について知識を深める。
6. LD(学習障害/学習症)・ADHD(注意欠陥多動性障害/注意欠如多動症)・自閉症スペクトラム症の発達障害児の特性と教育・支援についての基本的知識を学ぶ。
7. 各種障害児の発達特性と教育・支援について認識を深める。

■ 科目の学習要点事項

1. 「特殊教育」から「特別支援教育」への障害児教育の転換
2. 特別支援教育の概要と課題
3. 特別支援学校の教育
4. 特別支援学級の教育、通級による指導
5. 特別支援学校、特別支援学級における教育課程
6. LD・ADHD・自閉症スペクトラム症の特性と教育・支援
7. 各種障害児の発達特性と指導・支援
8. 障害児の自立と社会参加への支援

参考文献

『特別支援教育—理解と推進のために—』石部元雄・柳本雄次編著(福村出版)
『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚園・小学部・中学部)』文部科学省(開隆堂出版)

評価基準

■レポート評価

レポート作成にあたっては、レポート課題の趣旨を理解し、テキスト(参考文献を含む)を熟読したうえで、テキストの記述を転記するのではなく、重要事項を押さえて自分なりの視点から考察し、論理的に記述するようにすること。

■科目終了試験評価

科目終了試験は、テキストの構成内容の全体にわたって出題している。評価は出題の趣旨に沿った重要事項(キーワード)を盛り込んで、論理的かつ具体的に説明されているかにより行う。

『みんなで考える特別支援教育』 梅永雄二・島田博祐・森下由規子編著(北樹出版) 2020 年度～

科目概要

発達障害に関する基礎知識を学ぶ。具体的には、知的障害と個々の発達障害について、その定義、教育的支援の方法、及び卒業後に向けての移行支援、卒業後の支援などについて詳細な理解を深め、発達障害児支援教育者としての基盤を形成する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 発達障害の定義を理解し、学校や施設における指導場面で理解し対応できるようになる。
2. 自閉スペクトラム症(ASD)の定義や特性を理解し対応できるようになる。
3. 注意欠如・多動症(ADHD)の定義や特性を理解し対応できるようになる。
4. 限局性学習症(LD)の定義や特性を理解し対応できるようになる。
5. 発達性協調運動症(DCD)の定義や特性を理解し対応できるようになる。
6. 知的障害の定義や特性を理解し対応できるようになる。
7. 発達障害の卒業後の余暇や就労などの支援に関し、理解する。

■ 科目の学習要点事項

1. 発達障害の定義について
2. 知的障害の定義と特性について
3. 自閉スペクトラム症の定義と特性について
4. 注意欠如・多動症(ADHD)の定義と特性について
5. 限局性学習症(LD)の定義と特性について
6. 発達性協調運動症(DCD)の定義と特性について
7. 卒業後に向けた移行支援と卒業後の支援(就労・余暇。生涯学習など)について

参考文献

『発達障害の子どもたち』杉山登志郎(講談社現代新書)

『障害児保育ワークブック』星山麻木(萌文書林)

『DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引』American Psychiatric Association(医学書院)

『ICD-10 精神および行動の障害—臨床記述と診断ガイドライン』WHO(医学書院)

評価基準

■ レポート評価

テキストを熟読し、私見に陥らない、正しく客観的な論述ができているか

■ 科目終了試験評価

課題に沿って、重要項目を論理的にしっかり記述できているか

PA2140	障害児教育概論 1
--------	-----------

担当教員	島田 博祐	受講方法	RT
------	-------	------	----

使用テキスト	配本年度
--------	------

『みんなで考える特別支援教育』 梅永雄二・島田博祐・森下由規子編著(2019)、北樹出版 2020 年度～

科目概要

特別支援教育の実践にあたっては、障害特性を把握しそれに応じた教育方法を工夫するとともに、個々の児童生徒に対しては、障害よりもまず個人を見る人間観が不可欠である。その観点に立ち、概論 1 では以下の点を学習することとした。

- (1) 特別支援教育のシステム、学校体制に関し学ぶ。
- (2) 身体障害(視覚・聴覚・言語・病弱虚弱・肢体不自由)の特性と教育的配慮について学ぶ。
- (3) インクルーシブ教育の意義と合理的配慮に関し学ぶ。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 特別支援教育の現状と課題に関し、理解するテキストの第 22、23 章を参考にすること。
2. 身体障害(視覚・聴覚・病弱虚弱・肢体不自由)の特性と教育方法に関し理解する
3. インクルーシブ教育と合理的配慮に関し、理解する

■ 科目の学習要点事項

1. 特別支援教育に至る歴史と背景の理解
2. 特別支援教育の現状と課題の理解
3. 視覚障害児の特性と教育方法の理解
4. 聴覚障害児の特性と教育方法の理解
5. 運動障害児(肢体不自由児)の特性と教育方法の理解
6. 病弱虚弱児の特性と教育方法の理解
7. インクルーシブ教育と合理的配慮の理解
8. 障害理解教育の必要性、手法に関する理解

参考文献

『特別支援教育—共生社会の実現に向けて』 吉田武男監修 (2018) 、ミネルヴァ書房
『特別支援教育の基礎・基本 (新訂版)』 国立特別支援教育研究所 (2015) ジアース教育新社

評価基準

■ レポート評価

- ① 課題内容について説明できているか。
- ② テキストの内容を理解したうえで解答がされているか。
- ③ 用語の解説や選択問題に関して、用語に対する理解が得られているか。

■ 科目終了試験評価

- ① テキスト及びレポート学習内容を十分に理解したうえで解答がされているか。
- ② 論述型の問題に関して、文章を書く際の基本的ルールが守られているか。
- ③ 用語の解説や選択問題に関して、用語に対する理解が得られているか。

『みんなで考える特別支援教育』 梅永雄二・島田博祐・森下由規子編著、2019(北樹出版) 2020 年度～

科目概要

障害児教育概論 1 に引き続き、本講義では(1)知的障害、発達障害(LD、ADHD、自閉症スペクトラム障害)、(2)アセスメントと個別支援、(3)学齢期以降の就労支援、(4)高等教育におけるバリアフリー化などを意図した支援、(5)生涯学習支援等に関し、学習する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 知的障害の定義、分類に関し理解し、同障害のある児童・生徒の教育的支援の方法を学ぶ
2. 発達障害(LD、ADHD、自閉症スペクトラム障害)の特性と教育支援の方法に関し学ぶ
3. 主な知能・発達検査によるアセスメントに関し学び、個別の指導計画との関係を理解する
4. 学齢期後のキャリア支援、生涯学習支援の内容、支援方法に関し、理解する

■ 科目の学習要点事項

1. 知的障害の定義、分類、特性、支援ニーズに関する理解
2. 発達障害の定義、LD、ADHD、自閉症スペクトラム障害の各特性と支援に関する理解
3. WISC4 等、アセスメントに関する学習 (1)検査の基本的理解、(2)個別の指導計画への利用
4. 知的障害・発達障害者の就労支援に関する理解(課題分析・職務分析・ナチュラルサポート等)
5. 知的障害児者の生涯学習の現状と必要性に関する理解
6. 知的障害、発達障害における高等教育のバリアフリー化、支援の在り方に関する理解

参考文献

『こどもの発達が気になる時に読む心理検査入門』 安住ゆう子編著(2014)、合同出版

『キーワードで読む発達障害研究と実践ののための医学診断/福祉サービス/特別支援教育/就労支援』 日本発達障害学会 (2016)、福村出版

評価基準

■ レポート評価

- ①課題内容について説明できているか。
- ②テキストの内容を理解したうえで解答がされているか。
- ③用語の解説や選択問題に関して、用語に対する理解が得られているか。

■ 科目終了試験評価

- ①テキスト及びレポート学習内容を十分に理解したうえで解答がされているか。
- ②論述型の問題に関して、文章を書く際の基本的ルールが守られているか。
- ③用語の解説や選択問題に関して、用語に対する理解が得られているか。

PA2200	教育法規1		
担当教員	樋口 修資	受講方法	RTorSR

使用テキスト	配本年度
--------	------

『最新 教育法の基礎』 樋口修資(明星大学出版部)

2015 年度～

科目概要

教育政策・教育行政の基礎にある「教育法」について、①教育の中立性と法、②国・地方の教育行政と法、③教育委員会制度と法、④教育財政と法、⑤学校制度・就学制度と法、⑥教員免許制度と法、⑦学級編制と法、⑧学校の管理運営と法、⑨教員の身分と法、⑩学校の説明責任と法、⑪生徒指導と法、⑫教育課程と法、⑬学校の保健安全・学校事故と法の諸側面から考察する。

※本科目の学修に当たっては、教科書はもとより、参考図書も十分に活用しながら、主体的に学ぶ態度をもって、科目内容の知識と理解を深めるよう努めること。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

現代の教育行政と学校経営が「法律主義」の原則の下、憲法・教育基本法を頂点とする「教育法」秩序に基づいて実施されていることについて理解させるとともに、学校教育にかかる制度運営の基本的な諸側面について「教育法」の観点から必要な知識と認識が深まる。

■ 科目の学習要点事項

1. 憲法教育条項(国民の教育を受ける権利、義務教育の無償)と教育基本法の制定理念と改正趣旨について
2. 教育の中立性と自主性について
3. 国・地方の教育行政の権限と役割分担について
4. 教育の地方分権と学校の自主自律について
5. 学校の設置運営の原則と就学制度について
6. 教育費・教育財政の基本構造について

参考文献

『現代教育法概説』平原春好ほか著(学陽書房)

『教育行政法』木田宏著(良書普及会)

『教育法』兼子仁著(有斐閣)

『教育小六法』(学陽書房)

評価基準

■ レポート評価

テーマに関連した内容について、テキストを熟読し、学習すべき要点をきちんと理解し、まとめているかを評価の基準とします。

■ 科目終了試験評価

出題の趣旨を理解し、出題にかかるテキストの基本的知識をおさえた上で、正確に説明し、まとめているかどうかを評価の基準とします。

PA2210	教育法規 2		
担当教員	樋口 修資	受講方法	RTorSR

使用テキスト	配本年度
--------	------

『最新 教育法の基礎』 樋口修資(明星大学出版部)

2015 年度～

科目概要

教育政策・教育行政の基礎にある「教育法」について、①教育の中立性と法、②国・地方の教育行政と法、③教育委員会制度と法、④教育財政と法、⑤学校制度・就学制度と法、⑥教員免許制度と法、⑦学級編制と法、⑧学校の管理運営と法、⑨教員の身分と法、⑩学校の説明責任と法、⑪生徒指導と法、⑫教育課程と法、⑬学校保健安全・学校事故と法の諸側面から考察する。

※本科目の学修に当たっては、教科書はもとより、参考図書も十分に活用しながら、主体的に学ぶ態度をもって、科目内容の知識と理解を深めるよう努めること。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

現代の教育行政と学校経営が、「法律主義」の原則の下に、憲法・教育基本法を頂点とする「教育法」秩序に基づいて実施されていることについて理解させるとともに、学校教育にかかる制度運営の基本的な諸側面について教育法の観点から必要な知識と認識が深まる。

■ 科目の学習要点事項

1. 教員の資格・身分・服務について
2. 地域参画の学校づくりについて
3. 懲戒と体罰について
4. 学習指導要領と教育課程の編成・実施について
5. 学校事故と教員の故意・過失について
6. 学級編制・教職員定数などの教育条件整備について

参考文献

『現代教育法概説』平原春好ほか著(学陽書房)

『教育行政法』木田宏著(良書普及会)

『教育法』兼子仁(有斐閣)

評価基準

■ レポート評価

テーマに関連した内容について、テキストを熟読し、学習すべき要点をきちんと理解し、まとめているかを評価の基準とします。

■ 科目終了試験評価

出題の趣旨を理解し、出題にかかるテキストの基本的知識をおさえた上で、正確に説明し、まとめているかどうかを評価の基準とします。

PA2240	教育方法学		
担当教員	菱山 覚一郎	受講方法	RT

使用テキスト	配本年度
『教育方法の理論と実践』 小川哲生・菱山覚一郎(明星大学出版部)	2019 年度
『第2版 教育方法の理論と実践』 小川哲生・菱山覚一郎(明星大学出版部)	2020 年度～

科目概要

教育方法をめぐる理論的・実践的課題を考察することを通して、授業展開能力の育成を目指す。理論的な側面からは、教育方法の史的展開や現代的課題などを検討し、確かな教育観の育成を意識する。実践的な側面からは、学校教育の中心である授業実践を多角的に分析し、情報機器の活用を含む教育方法を学び、教師としての資質と技術の向上を意識する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 教育方法に対する認識が得られ、授業(情報機器の活用を含む)を展開できる。
2. 教育の方法と技術を意識した教材研究ができ、学習指導案が書けるようになる。
3. 教育の目的と教育方法の関連について理解が得られる。
4. 教育方法の歴史と思想が把握できる。
5. 現行および過去の学習指導要領に示される教育方法を整理できる。
6. 学力と評価および指導と評価の関係を常に意識するようになる。
7. デジタル機器を活用した教材開発ができるようになる。
8. 情報通信技術を活用した授業実践を進めることができるようになる。

■ 科目の学習要点事項

1. 教育の方法と技術に関する理論と歴史
2. 教育方法の類型と特色
3. 授業の役割と意義
4. 教材研究と学習指導案
5. 学力と評価
6. 情報メディアの活用と授業
7. 情報活用能力の向上と現実的課題
8. 高度情報通信社会における教育のあり方

参考文献

- ・『教職課程シリーズ 教育の方法と技術 (三訂版)』平沢茂編著 図書文化社
- ・『新しい教職教育講座 教職教育編 教育の方法と技術』篠原正典／荒木寿友編著 ミネルヴァ書房
- ・『授業設計マニュアルー教師のためのインストラクショナルデザイン』稲垣忠／鈴木克明編著 北大路書房
- ・各自が履修中の校種および教科の学習指導要領と同解説

評価基準

■レポート評価

- ・単位毎に2つのレポート課題が示されている。両方の課題にそれぞれ解答してあること。
- ・配本されているテキストを通読した上で、レポートのテーマに関連した部分をまとめられているかをみる。また、テキストだけでなく、参考書や辞典の類にも目を向けているかを評価する。
- ・テキストの記述や参考文献などを転記するのではなく、自分の言葉で書き進めてあるか判断する。また、独自の見解や分析が加味されているかもみる。
- ・理論的な視点と具体的な視点の双方を含んでいることがのぞましい。
- ・ホームページなどに示されている「作成方法・提出方法について」の条件を満たしていること。

■科目終了試験評価

- ・全ての回の科目終了試験に、2つの問題が示されている。両方の問題にそれぞれ解答してあること。
- ・テキストを基礎とした学習が進められ、理解が得られているかを評価基準とする。具体的には、教育方法学を学ぶ上での重要事項や用語が、正しく理解されているかを評価する。
- ・評価のポイントは、まず出題の趣旨に沿った解答が示されているかをみる。その上で、理論的に順序立てられて記述されているか、事項や用語に対する認識が有り、文章として説得力を有するかを判断する。
- ・論述文の展開方法・文体・誤字脱字の有無・漢字の適切な使用なども評価の対象とする。また、独自の経験や感想は、出題の趣旨に沿っていない場合は、減点対象とする。
- ・科目終了試験問題一覧の「解答上の注意事項」の条件を満たしていること。

PA2250	生涯学習と社会教育		
担当教員	神山 敬章	受講方法	RT

使用テキスト	配本年度
--------	------

『生涯学習概論』神山敬章・高島秀樹編(明星大学出版部) 2019 年度～

科目概要

日本の教育行政・施策は、戦後、日本国憲法、教育基本法の下、民主主義の教育を展開してきている。1987 年の臨時教育審議会答申以降、中央教育審議会、生涯学習審議会等各種答申にもとづき、生涯学習体系への施策を打ち出し、教育行政が行なわれている。現代社会における生涯学習、社会教育のあり方を、法・理論・事例より学習するものである。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. ユネスコにおける生涯学習論の展開を理解する。
2. 日本における生涯学習の展開について理解する。
3. 日本における社会教育の展開について理解する。
4. 教育法規を理解する。
5. 生涯学習と社会教育について、その違いを明らかにし、理解を深める。

■ 科目の学習要点事項

1. 生涯学習と社会教育について。
2. 生涯学習政策について。
3. 社会教育の目的と目標について。
4. 社会変動下における、社会教育と生涯学習について。
5. 生涯学習、社会教育の学習成果の活用と評価について。

参考文献

『生涯学習・社会教育行政必携』生涯学習・社会教育行政研究会編（第一法規）
『社会教育計画Ⅰ・Ⅱのテキスト』（学文社）
『社会教育課題研究Ⅰ・Ⅱテキスト』（明星大学出版部）

評価基準

■ レポート評価

レポート課題が求める学習の要点を理解し、まとめ 1500 字以上 2250 字以下でテキスト巻末に資料や他の文献を活用し、自分の論を交えてまとめられているのかを判断する。

■ 科目終了試験評価

問題はテキストに即して出題しているので、レポート課題・参考文献も活用し学習すること。論述の内容を判断し評価する。

PA2260	心理学概論		
担当教員	布施 光代	受講方法	RT

使用テキスト	配本年度
--------	------

『絶対に役立つ教養の心理学 -人生を有意義にすごすために-』

藤田哲也編著(ミネルヴァ書房) 2019 年度～

科目概要

人がどのように出来事や世界を捉えているのか、個人が他者からどのように認識されるのか、またどのように他者と関わって生活しているのかなどについて学ぶ。その際、身近な事例や実際の研究例、実験例などを通して学習する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

人が暮らしている日常について心理学の視点から捉えることで、これまで無意識に取っていた行動に対し、改めて意識を向けて理解を深めることを目指す。さらに、心理学的な考え方、ものの見方ができるようになることを目標とする。

■ 科目の学習要点事項

- ・取り上げたトピックについて説明できる。
- ・取り上げるトピックについて自分自身で考える姿勢を身につける。
- ・取り上げたトピックを教育現場の様々な問題と関連付けて考察し、子どもへの教育支援に関して発達的な視点から検討できる。

参考文献

- ①『よくわかる心理学』無藤隆・森敏昭・池上知子・福丸由佳著(ミネルヴァ書房)
- ②『わたしそしてわれわれ ミレニアムバージョンー現代に生きる人のための心理学テキストブック』大坊郁夫著(北大路書房)
- ③『グラフィック 心理学』北尾倫彦・中島実・井上毅・石王敦子共著(サイエンス社)
- ④『心理学』浦上昌則・中村和彦編著 (ナカニシヤ出版)
- ⑤『心理学概論』京都大学心理学連合編(ナカニシヤ出版)

評価基準

■ レポート評価

テキストの内容を理解し、心理学の知見を踏まえた論理的な主張が示せているか。

■ 科目終了試験評価

- ・心理学的な研究手法の理解、それに基づく仮説検証的な考え方などの理解ができているか。
- ・心理学の知見を日常生活や身近な事例にあてはめて説明できたり、考察できたりするか。

PA2270	保育の最新事情		
担当教員	伊藤 布佐子	受講方法	RT

使用テキスト	配本年度
--------	------

『なぜ 世界の幼児教育・保育を学ぶのか 子どもの豊かな育ちを保障するために』

泉 千勢 編著(ミネルヴァ書房)

2019 年度～

科目概要

世界各国の保育・幼児教育改革の現状を学ぶことで、保育の最新事情を理解し、日本の保育の課題と展望を得ることを目的とする。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

- ① OECD加盟国の保育・幼児教育の現状と改革のプロセスを理解する。
- ② OECDの保育に関する提言と21世紀の保育が目指す方向を理解する。
- ③ 世界の保育を学びながら、日本の保育の課題を理解する。

■ 科目の学習要点事項

- ① 世界の国々の文化的・経済的事情を踏まえたうえで、それぞれの保育の評価をすること
- ② OECDの三つの保育提言の要点を理解すること
- ③ 日本と諸外国の保育の違いを明確にすること

参考文献

- ① 『世界の幼児教育・保育改革と学力(未来への学力と日本の教育 9)』泉千勢・一見真理子・汐見稔幸編著、明石書店、2008年
- ② 『OECD保育白書—人生の始まりこそ力強く—乳幼児期の教育とケア(ECEC)の国際比較』OECD編著 星三和子・首藤美香子・大和洋子・一見真理子編訳、明石書店、2011年
- ③ 『持続可能な未来のための学習』ユネスコ著 阿部治・野田研一・鳥飼玖美子監訳、立教大学出版社、2005年
- ④ 『反貧困—「すべり台社会」からの脱出』湯浅誠著、岩波新書、2008年

評価基準

■ レポート評価

- ・参考文献を使用しながら、なおかつ自分なりの考えがまとめられていること
- ・レポート課題が求める内容がきちんと記述されていること
- ・誤字脱字がないこと
- ・段落に分け、ポイントをおさえてまとめられていること
- ・制限字数に満たないものは不備扱いとする。

■ 科目終了試験評価

出題範囲はテキスト全体に及ぶため、全体をよく読んでおくこと。特に、各国の保育改革のポイントをおさえ、めざす保育について理解を深めておくこと。

基本的に押さえておきたい事項について明記されており、しかもそれについて理由が自分の言葉で推測して説明されていること。

PA3030	教育の歴史と思想
--------	----------

担当教員	上坂 保仁	受講方法	RT
------	-------	------	----

使用テキスト	配本年度
--------	------

『教育史 古代から現代までの西洋と日本を概説』 田中克佳編著 川島書店 2012 年度～

科目概要

教育の本質に関わる問題を考察するためには、長い歴史の中で鍛えられてきた教育思想、制度などを振り返る作業が重要になる。そこで、教育史と教育思想について、主として西洋教育史を中心に概観する。それによって、日本国憲法第26条および教育基本法に示されている高邁な教育理念や精神が思想として歴史上に現れ、その実現のために人類は長い間戦い続けてきたことを理解したい。現代の教育を支える理念、内容、方法、制度などがどのように成立してきたかを歴史的に考察する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 教育史や教育思想に興味・関心をもって教育や学校の意義を理解し、教育史の重要性を説明できる。
2. 歴史的な視点の重要性を深く認識し、時間軸による広い視野から現代の教育思想や制度を説明できる。
3. 現代の教育理念や原理などについて、教育史的に理解しようとする姿勢が窺える。
4. 西洋教育の通史を理解し、教育思潮も含めた全体の流れを説明できる。

■ 科目の学習要点事項

1. 古代ギリシャ・ローマの教育と教育思想
2. ルネサンスと宗教改革期の教育と教育思想
3. 近代の教育と主な教育思想
4. 近代公教育制度の成立・展開と現代の教育課題

参考文献

『教育思想史』今井康雄編 有斐閣

評価基準

■ レポート評価

レポート課題に関係した内容をテキストから選び、レポート課題が求めている学習の要点を正しく理解し、テーマに即してまとめる。次に参考文献を図書館等で閲覧し、まとめた内容を深める。最後に、文章が理論的に一貫しているかに留意しながら推敲する。テキストの内容を基本に客観的に論じること。

■ 科目終了試験評価

科目終了試験は、「科目の到達目標」に示されている内容にどれくらい達しているかを測るものであります。テキストに示された基本的な内容を活用せずに、自説のみを展開しても評価となりません。科目の学習要点事項にかかわるテキストの内容を中心に、重要事項について説明できるように準備しましょう。評価の主なポイントは、出題の趣旨を理解し、適切に重要事項やキーワードを用いて的確に説明できているかという諸点となります。

PA3040	教育行財政1
--------	--------

担当教員	樋口 修資	受講方法	RTorSR
------	-------	------	--------

使用テキスト	配本年度
--------	------

『背景と実態から読み解く教育行財政』神林寿幸・樋口修資・青木純一共著(明星大学出版部)2021 年度～

科目概要

国家行政の一作用としての「教育行財政」について、その歴史的沿革を踏まえながら、どのような制度的枠組みの中で成り立っているのか、その基本的構造の特質を明らかにする。この科目では教育行財政の基本的事項として、日本の教育行財政を取り巻く社会の変化、国と地方自治体の教育行政と教育財政に関する仕組み、学校制度の枠組みを明らかにし、今後の教育行財政の方向性やあり方について講義する。

※本科目の学修にあたっては、テキストに加えて、本紙に示す参考図書、テキストに紹介がある文献資料も十分に活用しながら、主体的に学ぶ態度をもって、科目内容の知識と理解を深めるよう努めること。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

日本の教育行財政を取り巻く社会の変化を踏まえつつ、国と地方自治体の教育行政・教育財政に関する仕組み、学校制度の枠組みといった教育行財政に関する総合的な知識と理解が深まる。

■ 科目の学習要点事項

1. 日本の教育行財政を取り巻く社会の変化(人口減少社会と成熟社会の到来)
2. 日本の教育行政における国と地方自治体の役割分担
3. 国の教育行政組織とその機能
4. 地方自治体の教育行政組織とその機能
5. 国の教育財政をめぐる実態
6. 地方自治体の教育財政をめぐる実態
7. 学校制度の枠組み

参考文献

- ①『最新 教育法の基礎』樋口修資著(明星大学出版部)
- ②『教育の行政・政治・経営』青木栄一・川上泰彦共著(放送大教育振興会)
- ③『概説 教育行政学』平原春好著(東京大学出版会)
- ④『教育小六法』市川須美子他編(学陽書房)

評価基準

■レポート評価

レポートの作成にあたっては、テキストからレポート課題に関係した内容を選び、適切な分量にまとめること。そのうえで、できる限りレポート課題に関係のある参考文献を参照し、レポート内容の充実に努めることが望ましい。上記の点に基づき、レポートが適切に記述・構成されているかを評価する。

■科目終了試験評価

科目終了試験では「科目の学習要点事項」に関連した内容を取り上げることとするので、試験の準備にあたっては、それぞれの事項に該当する内容を学習して、基本的な理解に努めること。試験では、設問の意図を正確に把握し、要点となることをまとめているかどうかを評価する。まとめるにあたって、論理展開や考察が適切かどうかあわせて評価する。

PA3050	教育行財政2		
担当教員	樋口 修資	受講方法	RTorSR

使用テキスト	配本年度
--------	------

『背景と実態から読み解く教育行財政』神林寿幸・樋口修資・青木純一共著(明星大学出版部)2021 年度～

科目概要

国家行政の一作用としての「教育行財政」について、その歴史的沿革を踏まえながら、どのような制度的枠組みの中で成り立っているのか、その基本的構造の特質を明らかにする。この科目では「教育行財政」をめぐる作用のうち、学校の管理運営と児童生徒に対する指導に関わるものを取り上げる。具体的には、学校の組織運営と教職員、教員の養成・採用・研修と身分・服務、学校の評価・公開と保護者や地域の学校運営への参画、教育課程行政の基本的枠組みと運用の実際、生徒指導のあり方、子どもの貧困や日本語指導が必要な児童生徒等の複雑化する課題、学校の保健安全管理と「学校事故」について、その現状と課題を明らかにし、今後の方向性等を考察する。
※本科目の学修にあたっては、テキストに加えて、参考図書、テキストに紹介がある文献資料も十分に活用しながら、主体的に学ぶ態度をもって、科目内容の知識と理解を深めるよう努めること。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

学校の組織運営と教職員、教員の養成・採用・研修、教員の身分・服務、学校の評価・公開と保護者や地域の学校運営への参画、教育課程行政の基本的枠組みと運用の実際、生徒指導のあり方、子どもの貧困や日本語指導が必要な児童生徒に関する状況と関連制度、学校の保健安全管理と「学校事故」など教育行政や学校経営に関する総合的な知識と理解が深まる。

■ 科目の学習要点事項

1. 学校の組織運営と教職員
2. 教員の養成・採用・研修と身分・服務
3. 保護者や地域が参画する学校運営のあり方
4. 学習指導要領と教育課程編成のあり方
5. 生徒指導の意義・役割
6. 学校における懲戒と体罰
7. 子どもの貧困と日本語指導が必要な児童生徒に関する状況と関連制度
8. 学校の保健安全管理と「学校事故」

参考文献

- ①『最新 教育法の基礎』樋口修資著(明星大学出版部)
- ②『教育の行政・政治・経営』青木栄一・川上泰彦共著(放送大教育振興会)
- ③『概説 教育行政学』平原春好著(東京大学出版会)
- ④『教育小六法』市川須美子他編(学陽書房)

評価基準

■レポート評価

レポートの作成にあたっては、テキストからレポート課題に関係した内容を選び、適切な分量にまとめること。そのうえで、できる限りレポート課題に関係のある参考文献を参照し、レポート内容の充実に努めることが望ましい。

上記の点に基づき、レポートが適切に記述・構成されているかを評価する。

■科目終了試験評価

科目終了試験では「科目の学習要点事項」に関連した内容を取り上げることとするので、試験の準備にあたっては、それぞれの事項に該当する内容を学習して、基本的な理解に努めること。

試験では、設問の意図を正確に把握し、要点となることをまとめているかどうかを評価する。まとめるにあたって、論理展開や考察が適切かどうかあわせて評価する。

PA3060	情報教育1		
担当教員	須藤 康介	受講方法	RT

使用テキスト	配本年度
--------	------

『主体的・対話的で深い学びの環境とICT～アクティブ・ラーニングによる資質・能力の育成』

久保田 賢一・今野 貴之 編著(東信堂)

2019 年度～

科目概要

情報通信技術(ICT)の進歩による教育方法の多様化、高度化に支えられている知識基盤社会における教育の考え方、学習内容、学習方法、評価方法を学び、知識基盤社会が教育へもたらす影響について学習する。特に、情報通信技術の進展、学習環境の整備による情報教育のあるべき姿をまとめる。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 初等中等教育におけるICTを活用した教育について理解する。
2. 情報教育の目的を理解する。
3. 資質・能力を育成する教育方法について理解する。
4. 知識基盤社会の教育への影響を光と影の両面から理解する。
5. 情報活用能力の重要性と育成の観点を理解する。

■ 科目の学習要点事項

1. 情報通信技術(ICT)の進展・定着が進む中で、情報活用能力をはじめとした資質・能力の育成の重要性が高まっていることに留意する。
2. 情報教育における情報活用能力―情報リテラシー育成が重要であり、3つの観点から進められるべきである点に留意する。
3. 教育における情報通信技術(ICT)の活用にあたって、その有効性とマイナス面があることに留意する。
4. 初等中等教育における情報通信技術(ICT)を活用した教育と、それを育てる学習環境について留意する。

参考文献

- ・『教師のための情報リテラシー』舟生日出夫(ナカニシヤ出版)
- ・『学校教育と情報機器』堀田博史・森田健宏(ミネルヴァ書房)
- ・『教育の情報化に関する手引』文部科学省 <http://www.mext.go.jp/>
各自が履修中の校種および教科の学習指導要領と同解説

評価基準

■レポート評価

- ・配本されているテキストを通読した上で、レポートのテーマに関連した部分をまとめられているかをみる。また、テキストだけでなく、参考書や辞典の類にも目を向けているかを評価する。
- ・テキストや参考文献などの記述を転記するのではなく、自分の言葉で書き進めてあるか判断する。また、独自の見解や分析が加味されているかもみる。
- ・理論的な視点と具体的な視点の双方を含んでいることがのぞましい。

■科目終了試験評価

- ・テキストを基礎とした学習が進められ、理解が得られているかを評価基準とする。具体的には、情報教育を学ぶ上での重要事項や用語が、正しく理解されているかを評価する。
- ・評価のポイントは、まず出題の趣旨に沿った解答が示されているかをみる。その上で、事項や用語に対する認識が有り、文章として説得力を有するかを判断する。
- ・論述文の展開方法・文体・誤字脱字の有無・漢字の適切な使用なども評価の対象とする。また、独自の経験や感想は、出題の趣旨に沿っていない場合は、減点対象とする。
- ・科目終了試験問題一覧の「解答上の注意」の条件を満たしていること。

『主体的・対話的で深い学びの環境とICT～アクティブ・ラーニングによる資質・能力の育成』

久保田 賢一・今野 貴之 編著(東信堂)

2019 年度～

科目概要

情報通信技術(ICT)の進歩による教育方法の多様化、高度化に支えられている知識基盤社会における教育の考え方、学習内容、学習方法、評価方法を学び、知識基盤社会が教育へもたらす影響について学習する。特に、情報通信技術の進展、学習環境の整備による情報教育のあるべき姿をまとめる。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 情報通信技術(ICT)を活用した授業の実践と指導上のポイントを理解する。
2. 資質・能力を育成する教育方法について理解する。
3. 授業における情報活用能力の育成と情報通信技術(ICT)の活用との関連において理解する。
4. 学校教育における「学び」について情報教育の観点から理解する。

■ 科目の学習要点事項

1. 授業において情報通信技術(ICT)を活用する上での有効性と留意事項を確認する。
2. 21 世紀に求められる資質・能力を育成する教育方法と、それを育てる学習環境について留意する。
3. 学校教育における「学び」が世界情勢や情報通信技術(ICT)の進展によって変化してきていることに留意する。
4. 学び手が主体的になり仲間と協働して活動し、深く学ぶようになるために、教え手のあり方に留意する。

参考文献

- ・『教師のための情報リテラシー』舟生日出夫(ナカニシヤ出版)
- ・『学校教育と情報機器』堀田博史・森田健宏(ミネルヴァ書房)
- ・『教育の情報化に関する手引』文部科学省 <http://www.mext.go.jp/>
各自が履修中の校種および教科の学習指導要領と同解説



評価基準

■レポート評価

- ・配本されているテキストを通読した上で、レポートのテーマに関連した部分をまとめられているかをみる。また、テキストだけでなく、参考書や辞典の類にも目を向けているかを評価する。
- ・テキストや参考文献などの記述を転記するのではなく、自分の言葉で書き進めてあるか判断する。また、独自の見解や分析が加味されているかもみる。
- ・理論的な視点と具体的な視点の双方を含んでいることがのぞましい。

■科目終了試験評価

- ・テキストを基礎とした学習が進められ、理解が得られているかを評価基準とする。具体的には、情報教育を学ぶ上での重要事項や用語が、正しく理解されているかを評価する。
- ・評価のポイントは、まず出題の趣旨に沿った解答が示されているかをみる。その上で、事項や用語に対する認識が有り、文章として説得力を有するかを判断する。
- ・論述文の展開方法・文体・誤字脱字の有無・漢字の適切な使用なども評価の対象とする。また、独自の経験や感想は、出題の趣旨に沿っていない場合は、減点対象とする。

PA3080	授業研究1		
担当教員	菱山 覚一郎	受講方法	RT

使用テキスト	配本年度
--------	------

『教職教養講座 第5巻 教育方法と授業の計画』田中耕治編著（協同出版） 2018年度～

科目概要

本科目では、教育現場で展開される授業の理論的・実践的課題を考察すると同時に、履修者が教壇に立った時の授業展開能力の育成を目指す。学校教育の中心である授業の論点や課題を考察し、具体的な授業設計や教育評価の方法を習得する。授業実践に欠かせない学級経営の意識や、授業の歴史的遺産も視野に入れた学びを展開する。

テキストや参考文献による学習を基礎とするが、「学習指導要領」（各校種）および「学習指導要領解説」（各校種の総則や各教科）からの学びも大切となる。市販されている実践記録集や、ネット上に公開されている授業展開例などを参照し、積極的に自分自身の授業づくりを進めて欲しい。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 授業研究の必要性について把握できる。
2. 授業研究および教育方法の課題と論点が整理できるようになる。
3. 授業における目標・授業設計・展開・評価の関連が認識できる。
4. 学習指導についての知識・技術を深める。
5. 学習指導案の作成を通して、授業の進め方を把握・実践できる。
6. 過去の遺産に学び、自身の授業を向上させることができる。

■ 科目の学習要点事項

1. 教育方法をめぐる課題と論点
2. 学力
3. 授業の設計（教材や学習形態を含む）
4. 教育評価
5. 学級経営
6. 授業の歴史的遺産

参考文献

『学習指導要領』および『解説』（各校種・各教科）文部科学省 HP よりダウンロード
 田中耕治編『よくわかる授業論』ミネルヴァ書房
 日本教育方法学会編『日本の授業研究』（上・下）学文社

評価基準

■レポート評価

- ・配本されているテキストを通読した上で、レポートのテーマに関連した部分をまとめられているかをみる。また、テキストだけでなく、参考文献や事典および実践記録の類にも目を向けているかを評価する。
- ・テキストや参考文献などの記述を転記するのではなく、独自の見解を加味した自分の言葉で書き進めてあるか判断する。特に2単位目2については、自分なりのアイデアや工夫を加味した独自の実践になっているかを評価する。
- ・理論的な視点と具体的な視点の双方を含んでいることがのぞましい。

■科目終了試験評価

- ・テキストを基礎とした学習が進められ、理解が得られているかを評価基準とする。
- ・評価のポイントは、まず出題の趣旨に沿った解答が示されているかをみる。その上で、理論的に順序立てられて記述されているか、授業研究に対する認識が有り、文章として説得力を有するかを判断する。
- ・論述文の展開方法・文体・誤字脱字の有無・漢字の適切な使用なども評価の対象とする。
- ・科目終了試験問題一覧の「解答上の注意」の条件を満たしていること。

PA3090	授業研究2		
担当教員	菱山 覚一郎	受講方法	RT

使用テキスト	配本年度
--------	------

『「授業研究」を創る』鹿毛雅治・藤本和久(教育出版)

2019 年度～

科目概要

本授業では、現代の授業研究について広く学び、教育学と教職に必要な知識・理解の深化を主たる目標とする。授業研究の意義や役割などを中心に、現代の学校教育全般の姿を認識する。また、履修者が将来的には教職関係の職業に従事することを視野に入れ、実際の教育現場を強く意識し、教師としての資質と能力の向上を目指す。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 授業研究に対する認識が得られ、適切に授業が展開できる。
2. 授業の主体を意識した教材研究ができるようになる。
3. 授業記録の目的と意義について理解が得られる。
4. 教師及び研究者の対話に基づく校内研修の意義が把握できる。
5. 子ども・教師・学校の立場から授業研究の重要性を整理できる。
6. 授業実践と授業研究の関係を常に意識するようになる。
7. 授業研究の課題について認識が得られる。
8. PDCAを意識した授業実践を進めることができるようになる。

■ 科目の学習要点事項

1. 授業研究の範囲と意義
2. 授業研究の主体
3. 授業記録
4. 校内研修
5. 授業研究の事例からの学び
6. 子どもの学びと授業研究
7. 教師の学びと授業研究
8. 今後の授業研究のあり方と課題

参考文献

- ・『日本の授業研究(上・下)』日本教育方法学会編 学文社
- ・『よくわかる授業論』田中耕治編 ミネルヴァ書房
- ・『新しい教職教育講座 教職教育編 教育の方法と技術』篠原正典／荒木寿友編著 ミネルヴァ書房
- ・『授業設計マニュアルー教師のためのインストラクショナルデザイン』稲垣忠／鈴木克明編著 北大路書房
- ・各自が履修中の校種および教科の学習指導要領と同解説

評価基準

■レポート評価

- ・配本されているテキストを通読した上で、レポートのテーマに関連した部分をまとめられているかをみる。また、テキストだけでなく、参考書や辞典の類にも目を向けているかを評価する。
- ・テキストの記述や参考文献などを転記するのではなく、自分の言葉で書き進めてあるか判断する。また、独自の見解や分析が加味されているかもみる。
- ・理論的な視点と具体的な視点の双方を含んでいることがのぞましい。
- ・ホームページなどに示されている「作成方法・提出方法について」の条件を満たしていること。

■科目終了試験評価

- ・テキストを基礎とした学習が進められ、理解が得られているかを評価基準とする。具体的には、授業研究を学ぶ上での重要事項や用語が、正しく理解されているかを評価する。
- ・評価のポイントは、まず出題の趣旨に沿った解答が示されているかをみる。その上で、理論的に順序立てられて記述されているか、事項や用語に対する認識が有り、文章として説得力を有するかを判断する。
- ・論述文の展開方法・文体・誤字脱字の有無・漢字の適切な使用なども評価の対象とする。また、独自の経験や感想は、出題の趣旨に沿っていない場合は、減点対象とする。
- ・科目終了試験問題一覧の「解答上の注意事項」の条件を満たしていること。

PA3100	教育課程論		
担当教員	吉富 芳正	受講方法	RTorSR
使用テキスト	配本年度		
『現代教育課程入門』吉富芳正(明星大学出版部)			2019 年度～
科目概要			

教育基本法第6条第2条では、法律に定める学校、つまり学校教育法第1条で定める幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校などにおいては、「教育の目標が達成されるよう、教育を受ける者の心身の発達に応じて、体系的な教育が組織的に行われなければならない」と規定されている。これは、学校(幼稚園を含む。以下同じ。)での教育活動が意図的、体系的、組織的に行われることの必要性を示すものといえる。

このため、各学校では、教育活動全体の基幹となる教育課程を中心に、様々な計画が適切に編成され、効果的に実施されることが求められる。教員は、学校組織の一員として教育課程に関する知識を身に付け、その編成・実施のよりよい在り方を工夫し実践できる力量を磨き高めていくことが重要である。

学校の教育課程については、全国的に一定の教育水準を確保し、全国どこにおいても同水準の教育を受けることのできる機会を国民に保障するための基準として、学校種別ごとの学習指導要領(幼稚園教育要領を含む。以下同じ。)が定められている。

2017・2018(平成 29・30)年に改訂された新学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」という理念が掲げられ、子どもたちが新しい時代を切り拓いていくために必要な力を育成するために、①「何ができるようになるか」という視点から育成を目指す資質・能力を明確にし、②「何を学ぶか」という視点から教科等の構成や目標・内容等を見直すとともに、③「どのように学ぶか」という視点から主体的・対話的で深い学びを実現することが目指されている。こうした教育をよりよく進めるためカリキュラム・マネジメントを確立することも示されている。新学習指導要領は、幼稚園は2018年度から、小学校は2020年度から、中学校は2021年度からそれぞれ全面実施されており、高等学校は2022年度から年次進行で実施される。このように新学習指導要領が実施される時期に当たり、教育課程についてしっかり学び考えることは、教員を目指す上で極めて重要である。

こうした背景も踏まえつつ、本科目では、教育課程の意義、関係法令、学習指導要領の特徴、教育課程の編成・実施のポイント、教育課程に関する基礎的な理論、教育課程の変遷などについて考えながら学び、学校の組織の一員として教育課程の編成・実施に主体的に参画・協働するために必要な知識と思考力、判断力、表現力などの能力を身に付けることを目指す。

「教育課程論」の学習に当たっては、扱う対象が幅広いため、全体像の把握に努め、いま学んでいることが全体のどこに位置づくのかを常に意識しておくことが大切である。また、学習内容について、すでに知っていることや経験と関連付けたり、学校現場での生かし方を考えたりしながら学習することが大切である。さらに、教員として勤務する上で踏まえるべき法令や学習指導要領(教育要領)についての知識を有することを重視している。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 教育課程の意義や各学校で教育課程を編成することの重要性について理解し説明できる。
2. 教育課程に関する法令や学習指導要領の特徴について理解し説明できる。
3. 学習指導要領総則に示された教育課程の編成・実施の考え方や配慮事項について理解し、よりよい工夫を考え、説明できる。
4. カリキュラムに関する基礎的な理論について理解し説明できる。
5. 教育課程のおよその変遷について理解し説明できる。

■ 科目の学習要点事項

1. 教育課程やカリキュラムなどの用語の定義と教育課程の意義
2. 教育課程関係法令と新学習指導要領の特徴
3. 教育課程の編成や実施の考え方や配慮事項
4. カリキュラムに関する基礎的な理論
5. 教育課程の歴史(戦後は学習指導要領の変遷を中心に)

参考文献

- 『小学校学習指導要領』文部科学省(東洋館出版社)、2017(平成29)年3月告示
『中学校学習指導要領』文部科学省(東山書房)、2017(平成29)年3月告示
『高等学校学習指導要領』文部科学省、2018(平成30)年3月告示
『幼稚園教育要領』文部科学省(フレーベル館)、2017(平成29)年3月告示
『小学校学習指導要領解説総則編』文部科学省(東洋館出版社)、2017(平成29)年7月
『中学校学習指導要領解説総則編』文部科学省(東山書房)2017(平成29)年7月
『高等学校学習指導要領解説総則編』文部科学省(東洋館出版社)、2018(平成30)年7月
『幼稚園教育要領解説』文部科学省(フレーベル館)、2018(平成30)年2月

※これらの学習指導要領関係の資料は、文部科学省のホームページでみることができる。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm

- 吉富芳正ほか『これからの教育課程とカリキュラム・マネジメント』ぎょうせい、2020年4月
天笠茂『平成29年改訂小学校教育課程実践講座 総則』ぎょうせい、2017年10月
天笠茂『平成29年改訂中学校教育課程実践講座 総則』ぎょうせい、2017年10月
田村知子ほか『カリキュラムマネジメント・ハンドブック』ぎょうせい、2016年6月

評価基準

■レポート評価

- レポート課題が求めているポイントが的確に把握され、それを中心にまとめられている。
- レポート課題の要点に関する知識が適切に整理されるとともに、自分の考えが理由や根拠、具体例などを明確にして示されている。
- レポートの構成と表現が論理的であり、わかりやすく表現されている。

■科目終了試験評価

- 設問が求めているポイントが的確に把握され、それを中心にまとめられている。
- 設問の要点に関する知識が適切に整理されるとともに、自分の考えが理由や根拠、具体例などを明確にして示されている。
- 解答の構成と表現が論理的であり、わかりやすく表現されている。

PA3110	道徳の理論と指導法		
担当教員	小林 幹夫	受講方法	RTorSR

使用テキスト	配本年度
--------	------

『道徳教育と道徳科の授業展開』小林幹夫他(明星大学出版部)

2019 年度～

科目概要

学校における道徳教育は、児童・生徒の健全な成長に欠くことができないばかりか、規律ある学級や人間関係づくり、問題行動の未然防止の要でもある。本科目では、道徳教育の基礎的な知識の習得と、道徳科の特質を生かした授業展開を学び、教師の資質と実践力を高める。

テキストによる学習を基礎とするが、理論的な面では小学校および中学校の「学習指導要領」および「学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」からの学びも大切となる。実践的な面では学年毎の実践記録集などを参照し、実践事例を積極的に収集し、自分自身の道徳授業作りを意識する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 道徳教育の必要性・道徳科の考え方について把握できる。
2. 学習指導要領における道徳教育に関する考え方の理解が深まる。
3. 道徳科の目標・内容項目・評価の関連が認識できる。
4. 道徳科の指導法について知識・技術を深める。
5. 学習指導の実践例を学び、独自の教材開発ができるようになる。
6. 学習指導案の作成を通して、授業の進め方を把握・実践できる。

■ 科目の学習要点事項

1. 道徳とは何か、道徳教育の基本的な考え方
2. 学習指導要領における道徳教育
3. 道徳教育の目標
4. 道徳教育の指導計画
5. 道徳科の目標
6. 学習指導の実践例
7. 学習指導案の書き方

参考文献

- ・赤堀博行監修『これからの道徳教育と「道徳科」の展望』東洋館出版社 2016 年
- ・白石範孝監修『「資質・能力」を育成する道徳科授業モデル』学事出版 2017 年
- ・吉田武男監修『MINERVAはじめて学ぶ教職道徳教育』ミネルヴァ書房 2018 年
- ・志望校種の『学習指導要領』および『学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』

評価基準

■レポート評価

- ・配本されているテキストを通読した上で、レポートのテーマに関連した部分をまとめられているかをみる。また、テキストだけでなく、参考書や辞典および実践記録の類にも目を向けているかを評価する。
- ・テキストや参考文献などの記述を転記するのではなく、自己の見解を加味した自分の言葉で書き進めてあるか判断する。特に2単位目については、道徳科の特質を踏まえた学習指導過程や指導方法の工夫を加味した実践になっているかを評価する。
- ・理論的な視点と具体的な視点の双方を含んでいることがのぞましい。

■科目終了試験評価

- ・全ての回の科目終了試験に、2つの問題が示されている。両方の問題にそれぞれ解答してあること。
- ・テキストを基礎とした学習が進められ、理解が得られているかを評価基準とする。具体的には、道徳教育の理念・目標・指導方法などが、正しく理解されているかを評価する。
- ・評価のポイントは、まず出題の趣旨に沿った解答が示されているかをみる。その上で、理論的に順序立てられて記述されているか、道徳教育に対する認識が有り、文章として説得力を有するかを判断する。
- ・論述文の展開方法・文体・誤字脱字の有無・漢字の適切な使用なども評価の対象とする。
- ・科目終了試験問題一覧の「解答上の注意事項」の条件を満たしていること。

PA3120	特別活動と総合的な学習の時間の指導法
--------	--------------------

担当教員	吉富 芳正	受講方法	RT
------	-------	------	----

使用テキスト	配本年度
--------	------

『教科外活動の未来を拓く-特別活動と総合的な学習の時間の世界-』
吉富芳正・菱山覚一郎編著(明星大学出版部) 2019 年度～

科目概要

現在、学校において特別活動と総合的な学習の時間は、各教科や道徳科とともに教育課程を担っている。そして各教科や道徳科とは違った教育的意味を持っている。このような状況を踏まえながら、特別活動と総合的な学習の時間の理論と指導の基礎を学ぶ。基本的な性格や意義の把握だけでなく、史的な経緯も視野に入れて、学校や学級で展開されるすべての教育活動の再検討につなげて理解を深める。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 教科外活動の意義とあり方が説明できる。
2. 特別活動の意義と変遷について理解している。
3. 特別活動の各活動・学校行事の目標と内容について理解している。
4. 総合的な学習の時間の意義と変遷について理解している。
5. 総合的な学習の時間の目標と内容について理解している。
6. 特別活動と総合的な学習の時間の関連を把握している。
7. 教科外活動の計画と実践について自分の考えをもっている。

■ 科目の学習要点事項

1. 学校における教科外活動の意義
2. 特別活動の意義・変遷・目標・内容
3. 学級活動およびホームルーム活動
4. 児童会活動および生徒会活動
5. クラブ活動
6. 学校行事
7. 総合的な学習の時間の意義・変遷・目標・内容
8. 特別活動と総合的な学習の時間の関連
9. 教科外活動の指導の計画および課題

参考文献

- ・『新しい教職教育講座 教職教育編 特別活動』ミネルヴァ書房 原清治監修
- ・『新しい教職教育講座 教職教育編 総合的な学習の時間』ミネルヴァ書房 森田真樹／篠原正典編著
- ・『未来を拓く力を育む特別活動』北樹出版 田沼茂紀著
- ・各自が志望する校種の学習指導要領と同解説特別活動編

評価基準

■レポート評価

- ・単位毎に2つのレポート課題が示されている。両方の課題にそれぞれ解答してあること。
- ・配本されているテキストを通読した上で、レポートのテーマに関連した部分をまとめられているかをみる。また、テキストだけでなく、参考書や辞典の類にも目を向けているかを評価する。
- ・テキストの記述や参考文献などを転記するのではなく、自分の言葉で書き進めてあるか判断する。また、独自の見解や分析が加味されているかもみる。
- ・理論的な視点と具体的な視点の双方を含んでいることがのぞましい。
- ・履修の手引などに示されている「作成方法・提出方法について」の条件を満たしていること。

■科目終了試験評価

- ・全ての回の科目終了試験に、2つの問題が示されている。両方の問題にそれぞれ解答してあること。
- ・テキストを基礎とした学習が進められ、理解が得られているかを評価基準とする。具体的には、本科目を学ぶ上での重要事項や用語が、正しく理解されているかを評価する。
- ・評価のポイントは、まず出題の趣旨に沿った解答が示されているかをみる。その上で、理論的に順序立てられて記述されているか、事項や用語に対する認識が有り、文章として説得力を有するかを判断する。
- ・論述文の展開方法・文体・誤字脱字の有無・漢字の適切な使用なども評価の対象とする。また、独自の経験や感想は、出題の趣旨に沿っていない場合は、減点対象とする。
- ・科目終了試験問題一覧の「解答上の注意事項」の条件を満たしていること。

『追補 生徒指導—小学校—』 味形修(明星大学出版部)	2019 年度
『子どもとともに歩む 生徒指導』 味形修(明星大学出版部)	2020 年度～

科目概要

少子高齢化、グローバル化、人工知能等の高度情報化のなかで、児童生徒の家庭や社会における規範意識等が変化し、生徒指導の内容也多岐にわたり複雑化している。「自己指導能力」の育成を積極的意義として進められる生徒指導の内容や方法等の認識を高める。学校教育のなかでの生徒指導の位置づけ、教育課程等との関係をどう捉えればよいかを学ぶ。学級経営をはじめとした教師の指導への理解を深める。また、学校・家庭・地域の協働、連携による指導体制の必要性も理解する。

さらに将来の社会を担う児童生徒の社会的自立に加え、キャリア発達による職業的自立に向け、児童生徒の進路、就労・職業観にかかわる就学前からの継続的キャリア教育を理解する。職業指導、進路指導とキャリア教育の関係も明らかにする。はば広い視野から生徒指導の目的・内容・方法を理解し実践へとつなげていく。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

- ① 学校教育全体のなかの生徒・進路指導とキャリア教育の位置づけ、意義・目的・課題を理解する。
- ② 教育課程における生徒・進路指導とキャリア教育の関係を理解する。
- ③ 生徒指導の原理と内容を知り、指導する教師の姿勢や態度を身につける。
- ④ 現代社会の生徒の現状把握と課題を把握する。
- ⑤ 学級経営の重要性を知り、生徒指導と学習指導の関係を理解する。
- ⑥ 学校内外の協働による連携・協力、体制づくりの認識を高める。
- ⑦ 児童生徒の問題行動についての定義、今日的課題と対応を把握し理解する。
- ⑧ キャリア教育の意義や必要性を理解する。

■ 科目の学習要点事項

- ① 生徒指導の意義・目的・内容の把握、学校教育における位置づけ
- ② 児童生徒の現状把握、行動などの特徴
- ③ 生徒指導と教育課程、その他の活動との関係
- ④ 社会的・職業的自立へ向けた「キャリア教育」の意義・目的・内容
- ⑤ 児童生徒の主な問題行動の理解、家庭・地域・学校の連携協力体制による指導や取組
- ⑥ 懲戒と体罰(学校教育法 11 条)の理解、校則の理解と指導
- ⑦ 指導に臨む教師の姿勢・態度
- ⑧ 学級ならびにホームルーム活動

参考文献

- ①『生徒指導提要』(文部科学省、2011)
- ②『小学校・中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 総則編』(文部科学省、2018)
『高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)解説 総則編』
- ③『生きる力が育つ生徒指導と進路指導』(松田文子ほか編、北大路書房、2013)
- ④『生徒指導 10 の原理 100 の原則』(堀裕嗣、学事出版、2011)
- ⑤『教師の資質』(諸富祥彦、朝日新書、2013)
- ⑥『必携: 生徒指導と教育相談』(渡辺弥生・西山久子編著、北樹出版、2018)

評価基準

■レポート評価

- ・課題の求めているものを把握、理解したうえで、できるかぎり実践的な指導例などを参考に、担任、専科教師そして学校組織の一員としての指導の取り組みを、具体的イメージを描き考えをまとめていること。
- ・主観的な判断、考え方に偏った内容の場合は不合格とする。テキストなどの内容に沿って客観的な考察を心がけたうえで、自分の意見をまとめること。
- ・制限字数に満たないものは不合格とする。(二つの課題のどちらかだけに偏らないようにバランスよく字数を配分すること)
- ・他人のレポートの内容に酷似していると判断できる場合は不合格とする。

■科目終了試験評価

- ・レポート作成での自学自習をしっかり行い、上述の学習要点の達成度、科目終了試験の出題の趣旨を理解して解答しているかを判定する。
- ・出題範囲はテキスト全体に及ぶ。重要事項等の理解を深めておくこと。
- ・自分の経験や体験を通した確認は必要であるが、その内容や自説を述べても評価はできない。
- ・重要事項や学習要点事項の語句、表現を使用するだけでは合格とはならない。それらの意味や概念を理解したうえで、考えを深めた点を判断する。
- ・出題の意図を把握し、今までの学習の成果を試験の解答に期待する。

『教師のための教育相談 日常から子どもに向き合うインクルーシブな発達支援』
西本絹子著(萌文書林) 2019 年度～

科目概要

1. カウンセラーとは異なる教師の行う教育相談の役割と特徴を理解し、教育相談の方法の基礎にある諸理論を学ぶ。
2. 幼児期から思春期・前青年期までの子どもとその家庭に関する臨床的問題、及び現代の教育現場において大きな課題であるいじめ・不登校・発達障害などの諸問題に適切に対応するため、そのメカニズムと支援方法の基礎を理解する。
3. 貧困や孤立、虐待など多様な問題を抱える保護者・様々な困難を抱える子どもとのつながり方・理解の仕方の原則を理解し、内外の資源と連携しながら支援するための知識と技能を習得する。
予習・復習に必要な時間はそれぞれ1時間30分である。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. カウンセリング・カウンセリングマインドに関する基礎知識を得る。
2. 高度専門職業人を目指す者として、学校教育における教育相談の重要性を理解し、教育相談に必要なカウンセリング・マインドの姿勢と技能を身に付けることができる。
3. 幼児・児童・生徒やその保護者をめぐる、いじめ・不登校・発達障害・貧困・虐待などの多様な問題に対して、常に積極的に関心を向ける態度を身に付ける。
4. いじめ・不登校・発達障害・貧困・虐待などの多様な問題に対して、常に積極的に関心を向ける態度を身に付ける。
5. いじめ・不登校・発達障害・貧困・虐待などの多様な問題に対して、科学的な知識に基づいて思考し、支援方法について適切に判断することができる。

■ 科目の学習要点事項

1. わが国における今日の子どもと子育てをめぐる状況を広く理解し、そのなかで学校・教師に求められる役割を知る。
2. 教育相談の定義と学校教育における役割、教育相談の目的と内容、教師の行う教育相談とカウンセラーの行うカウンセリングとの違いを理解する。
3. カウンセリングの基礎と、カウンセリングの基本にある代表的諸理論、カウンセリング・マインドとカウンセリングの3原則を理解する。
4. カウンセリング・マインドを活かした聴き方の技法の基礎を理解する。
5. 保護者対応・面接の基本を理解する。
6. 発達の視点から子どもを理解する考え方、子どもの問題のアセスメント(見立て)の方法、問題行動の捉え方について理解する。
7. 学校の病ともいえるいじめについて、いじめ問題の実態、病理の本質と発生のメカニズムを理解し、早期発見・短期的対応方法、および予防・長期的対応方法の基礎を理解する。

8. 不登校について、その実態と背景にある病理のメカニズムを理解し、予防・初期対応・長期的対応方法の基礎を理解する。
9. 発達の障害や偏りなど、特別な教育ニーズを持つ子どもたちへの教育に関する基礎知識と、その支援の考え方の基礎を理解する。自閉症スペクトラム障害・ADHD・LD のある子どもの理解と、教室における支援のポイントを理解する。
10. 様々な困難を抱えた保護者への支援の方法の基礎を理解する。
障害のある子どもの親の理解と支援の方法、無理難題を要求したり孤立している「困った親」の理解と支援の方法、家庭養育問題（貧困・虐待）の理解と支援の方法の基礎を理解する。
11. 問題の対応に際して必要となる、園内・学校内連携・学校外の諸資源との連携について理解する。

参考文献

- 1 西本絹子・古屋喜美代・常田秀子(編著)2018「子どもの臨床発達心理学 未来への育ちにつなげる理論と支援」萌文書林
- 2 菅野純(著)1995「教師のためのカウンセリング・ゼミナール」実務教育出版
- 3 菅野純(著)2001「教師のためのカウンセリング・ワークブック」金子書房
- 4 栗原慎二(著)2002「新しい学校教育相談の在り方と進め方―教育相談係の役割と活動」ほんの森出版
- 5 春日井敏之・伊藤美奈子(編著)2011「やわらかアカデミズム・わかるシリーズよくわかる教育相談」ミネルヴァ書房

評価基準

■レポート評価

＊レポート記述に関して次の観点から評価する。

- ① テキストの内容・用語・概念を正しく理解しているか。
- ② 課題が要求している内容に沿って要点がまとめられているか。

＊以下のようなレポートは再提出となる。

- ① 規程の分量が守られていない。
- ② ほとんどがテキストやインターネット上のサイトの丸写しであると思われるもの。
- ③ 他の受講生のレポートと同じかほとんど類似しているもの。
- ④ 誤字・脱字等が著しく多いもの、あるいは日本語の文章として逸脱しているもの。

■科目終了試験評価

＊試験に関しては次の観点から評価する

1. テキストの内容・用語・概念を正しく理解しているかどうか。
2. 問題内容に的確に沿った解答であるか。
3. 誤字・脱字等がなく、読みやすい字で書かれ、日本語の文章として適切であるか。

PA3150	教育相談及び生徒指導・進路指導		
担当教員	味形 修	受講方法	RTorSR

使用テキスト	配本年度
--------	------

- ①『必携:生徒指導と教育相談』渡辺弥生・西山久子編著(北樹出版) 2021年度～
 ②『生徒指導提要』(教育図書株式会社)2021年度～ ①②セット配本

科目概要

小学校・中学校・高等学校における生徒指導と教育相談、さらに進路指導とキャリア教育の意義や目的を理解する。学校における実践をイメージに描き、一人一人の子どもの「自立」を促し、進路選択や人生設計のための支援について学習する。

学校には様々な課題が散逸している。学校や地域独自の課題を含め学習(教科)指導と両輪をなす生徒指導を軸に、学級経営・ホームルーム経営、問題行動や不登校の未然防止から解決とケアなど、学校教育活動すべてが対象となる。教員の指導内容や方法、技法を理解する。

また、指導の心構えを確認するとともに自分自身を振り返ることの重要性を認識する。学校や家庭、地域、関連諸機関との連携について理解を深める。そして教員の学習指導に匹敵する生徒指導の重要な役割について認識を高める。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

- ① 学校教育全体の活動における生徒指導・進路指導・教育相談の位置づけを理解する。
- ② 生徒指導・進路指導・教育相談の意義や目的、課題を理解し、相互の関係を知る。
- ③ 「自己指導能力」の育成と「自立」への理解を深め、指導の重要性を知る。
- ④ 教育課程内外において生徒指導・進路指導・教育相談の役割を理解する。
- ⑤ カウンセリング・マインドをはじめとする教員の指導に臨む姿勢、心構えを知り、自分自身を見つめなおす。
- ⑥ 児童生徒の発達心理への理解を深める。
- ⑦ 児童生徒の発達段階を踏まえた指導のポイントや課題を知り、実践イメージを描く。
- ⑧ キャリア教育の取組を児童生徒の発達段階に応じた理解を深め、進路指導との関係も理解する。
- ⑨ 学校内外の協働による連携・協力の体制づくりと円滑な連携のための課題を知る。

■ 科目の学習要点事項

- ① 学校教育の生徒指導・進路指導・教育相談の意義や目的、課題について、各々の役割
- ② 児童生徒の成長発達段階の理解と健全な心身の発達を促す成長
- ③ 「自己指導能力」の育成の必要性、「自立」の理解
- ④ 生徒指導と教育課程の関係、生徒指導が特に留意する3つの点(3機能)の理解と取組
- ⑤ 生徒指導や教育相談のアセスメント、カウンセリングの技法
- ⑥ 学級経営、ホームルーム経営とそれらの活動
- ⑦ 進路指導とキャリア教育の関係
- ⑧ 学校・家庭・地域・関係諸機関との連携

参考文献

- ①『生徒指導リーフ』シリーズ(国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター)
数ある中から、〈リーフ1, 2, 3, 6,8,9,13, 14, 18〉など
- ②『生徒指導 10 の原理 100 の原則』堀祐嗣著(学事出版、2011)
- ③『学級経営 10 の原理 100 の原則』堀祐嗣著(学事出版、2011)
- ④『学校って何だろう』荻谷剛彦著(ちくま文庫、2005)
- ⑤『教師の資質』諸富祥彦著(朝日新書、2013)

評価基準

■レポート評価

- ・課題が求めていることを把握し理解したこと踏まえたまとめであること。教員の指導をイメージし、指導に臨む姿勢を理解していること。
- ・学校教育に求められている連携・協力体制の課題、「開かれた学校・開かれたカリキュラム」への認識などについて理解したことがわかる記述であること。
- ・主観的な判断、考えに偏った内容は不合格とする。テキストや参考文献などの内容を適切に引用しても構わないが、自分の考えを補足するものであること。
- ・制限字数に満たないものは不合格とする。
- ・他人のレポートの内容に酷似していると判断できる場合は不合格とする。あくまでも自分の意見、考えをまとめること。

■科目終了試験評価

- ・レポート作成での自学自習をしっかり行い、上述した学習要点の達成度、科目修了試験の出題の趣旨を理解して解答しているかを判断、判定する。

『臨床発達支援の専門性』西本絹子・藤崎真知代編(ミネルヴァ書房)

2019 年度～

科目概要

乳幼児期から児童期・思春期・青年期における、発達上に現れる様々な臨床的問題を取り上げ、背景にある発達のメカニズムと、教育・保育現場における支援の方法を、発達臨床心理学から学ぶ。

その他必要である、または期待される主体的学びの概要としては、子どもをめぐる現代的な様々の問題や事象に対して、積極的に関心を持ち、知識を得て思考することである。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 子どもの問題を捉えるための臨床発達心理学の理論と支援に関する倫理も含めた基礎的知識を身に付ける。
2. 発達支援におけるアセスメントの方法や、支援方法(カウンセリング、コンサルテーション、コーディネーション等)の実際に関して理解する。
3. それぞれの発達段階における子どもの発達支援・障害支援の様々な方法に関して、関連する法律や福祉などの領域に関する知識をも含めて理解する。
4. 社会のひずみから生まれる様々な問題状況(いじめ・不登校、児童虐待や子どもの貧困等の家庭養育問題等)の発生のメカニズムと支援の基礎を理解し、それらの問題に積極的に目を向ける態度を身に付ける。

■ 科目の学習要点事項

1. 臨床発達心理学の特徴 発達の観点とは何か 倫理の基本
2. アセスメントの実際 支援の実際(カウンセリング、コンサルテーション、コーディネーション)
3. 育児への支援 現状 課題 支援の方法
4. 保育への支援 現状 課題 支援の方法
5. 学童期における支援 現状 課題 支援の方法
6. 前期青年期における支援 現状 課題 支援の方法
7. 後期青年期における支援 現状 課題 支援の方法

参考文献

1. 藤崎真知代・大日向雅美(編著)2011「育児のなかでの臨床発達支援」ミネルヴァ書房
2. 秦野悦子・山崎晃(編著)2011「保育のなかでの臨床発達支援」ミネルヴァ書房
3. 西本絹子・古屋喜美代・常田秀子(編著)2018「子どもの臨床発達心理学 未来への育ちにつなげる理論と支援」萌文書林
4. 菊池武剋(監修)・沼山博(編)「思春期・青年期と向き合う人のための心理学」(中央法規出版)

評価基準

■レポート評価

＊レポート記述に関して次の観点から評価する。

- ①テキストの内容・用語・概念を正しく理解しているか。
- ②課題が要求している内容に沿って要点がまとめられているか。

＊以下のようなレポートは再提出となる。

- ① 規程の分量が守られていない。
- ② ほとんどがテキストやインターネット上のサイトの丸写しであると思われるもの。
- ③ 他の受講生のレポートと同じかほとんど類似しているもの。
- ④ 誤字・脱字等が著しく多いもの、あるいは日本語の文章として逸脱しているもの。

■科目終了試験評価

1. テキストの内容・用語・概念を正しく理解しているかどうか。
2. 問題内容に的確に沿った解答であるか。
3. 誤字・脱字等がなく、読みやすい字で書かれ、日本語の文章として適切であるか。

PA3270	教育調査分析法		
担当教員	須藤 康介	受講方法	RT

使用テキスト	配本年度
--------	------

『新版 文系でもわかる統計分析』須藤康介・古市憲寿・本田由紀著(朝日新聞出版) 2020 年度～

科目概要

児童・生徒を対象とした質問紙調査(いわゆるアンケート調査)を分析するための基礎的な手法を身につける。具体的には、神奈川県公立中学生を対象とした調査データを題材に、代表的な分析手法を学び、自分であればどのような調査・分析を行うかを考える。教育調査の初学者であることを前提にした科目である。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

今後の仕事や学校現場において質問紙調査を実施する可能性がある学生、実施済みの調査データの分析を行う可能性がある学生は、本科目の履修を推奨する。児童・生徒を対象とした質問紙調査や学力調査を分析できるようになる。

■ 科目の学習要点事項

1. 学力・成績 — 統計分析へようこそ
2. 友人との関係 — クロス集計の基礎
3. 教師との関係 — クロス集計の基礎
4. 保護者との関係 — クロス集計の応用
5. 部活動の実施状況 — クロス集計の応用
6. メディアの利用状況 — 相関分析
7. 恋愛・ジェンダー — 相関分析
8. 学校の授業方法 — 分散分析
9. 家庭の文化的環境 — 分散分析
10. 自分に関する意識 — 重回帰分析
11. 学校に関する意識 — 重回帰分析
12. 現代社会に関する意識 — ロジスティック回帰分析
13. 将来の進路 — ロジスティック回帰分析

参考文献

林雄亮・苫米地なつ帆・俣野美咲 2017『SPSSによる実践統計分析』オーム社。
 本田由紀 2011『学校の「空気」』岩波書店。
 森岡清志編 2007『ガイドブック社会調査 第2版』日本評論社。

評価基準

■レポート評価

問題関心(分析で明らかにしたいこと)が明確か、その問題関心に適した分析手法が選択されているか、の二つの観点から可否を判定する。

■科目終了試験評価

自分が教育調査を実施する場合、どのような調査・分析を行うかを論述してもらふ。レポートとの違いは、調査の内容まで自分で設計できる点である。

PA3280	放課後子ども支援
--------	----------

担当教員	小暮 健一	受講方法	SR
------	-------	------	----

使用テキスト	配本年度
--------	------

『改訂テキスト学童保育指導員の仕事』全国学童保育連絡協議会 2019 年度～2020 年度
『改訂・テキスト 学童保育指導員の仕事【増補版】』全国学童保育連絡協議会 2021 年度～

科目概要

本科目は、学童期の子ども全般をとらえながら放課後子ども支援とは何かについて、基本的な理解をすることである。そのために、学童期の子どもの支援と支援員の仕事を学び、放課後・学校休業日の生活づくりに必要な基本的な視点等を学ぶ。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

- ① 放課後子ども支援(学童保育)とは何か、その基本的なことを学び理解を深める。
- ② 学童保育での子どもの生活を保障する生活づくりを理解する。
- ③ 子ども理解と放課後児童支援員の働きかけの基本的な視点を学び理解する。

■ 科目の学習要点事項

- ① 子ども家庭福祉政策と働く親の願い、子どもの放課後社会、学童保育分野の役割・目的を理解する。
- ② 法制化された学童保育関連の法令等について理解する。
- ③ 子どもの権利、学童保育の生活の特徴、子どもをとらえる視点、障害児・配慮の必要な子どもがわかる。
- ④ 学童保育に通う子どもを理解するー子どもの発達を理解(児童期)する。
- ⑤ 健康と安全を守るという意味ー衛生・けが・事故・アレルギー・緊急時対応がわかる。
- ⑥ 出席確認、打ち合わせ、保育計画作成、保護者へ子どもの生活を伝える・相談への対応・実務の重要性がわかる。
- ⑦ 生活づくりとは何か、一日の生活の流れと長期休みの生活がわかる。
- ⑧ 記録の必要性、学ぶことの必要性がわかる。
- ⑨ 仕事内容に求められる資質・人間性と倫理観へ関心を向ける。
- ⑩ 身近な生活から観える学童期の子どもの様子や自分自身が通っていた学校生活を振り返り、身近な問題の時間として理解できるようにする。
- ⑪ 時間をとって上記の具体的事項の予習・復習する態度に努める。

参考文献

『放課後児童クラブ運営指針解説書』厚生労働省プレーベル館 2017 年
『学童保育と子どもの放課後』増山均 新日本出版社 2015 年
『入門ガイド学童保育指導員』野中賢治・片山恵子編著 大月書店 2011 年

評価基準

■ レポート評価

レポートが求めている要点をしっかりと把握して、記述されているか。
テキストの内容・用語を正しく的確に理解しているかの 2 点は、合格の前提である。
その上で、課題が求める内容に沿って具体的事例を含め要点がまとめられているか。
他の受講生と同じか、ほとんど類似のレポートは不合格の場合がある。

『「生き抜く力」の育て方：逆境を成長につなげるために』蝦名玲子(大修館書店) 2019 年度～

科目概要

- 1.メンタルヘルスとは何か、高負荷のストレスなど逆境においてもその捉え方や乗り越える力には個人差があることとその理由・背景(科学的根拠)を学ぶ。
- 2.ストレスへの対処スキルは育ちの環境に大きく左右されること、とくに子どもにとっては、日常生活の文脈における保育者・教師からの声かけ一つでこころの状態が 180 度変化すること、さらに大人との関係性も変化することを理解する。
- 3.動機付け面接の基本を理解することで、子どもへの接し方、職場における大人どうしの接し方を習得する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. ストレスの本質を理解し、日常生活における様々なストレスや逆境に対する精神的しなやかさや強さは何かを理解する。
2. メンタルヘルス維持・向上のためには、意識的に環境を調整する必要があることを理解し、その環境づくりが可能なフレームワークがあることを知る。
3. 保育者・教師のメンタルヘルスが子どものメンタルヘルスにも強く影響することを肝に銘じ、子どもたちの育ちの環境の一としての立場、責任を自覚する。

■ 科目の学習要点事項

1. レジリエンスとは:精神的強さの 3 つの秘訣
2. 強すぎるストレス環境(逆境)を生き抜くために必要な気質と環境
3. 「健康生成論」と首尾一貫感覚(SOC):わかる感、できる感、やるぞ感
4. SOC を育むための環境に必要な 3 つの要件
5. 心的外傷後成長と 5 つの成長領域、成長を促す個人と環境の特性
6. 子どものメンタルヘルスに必要な大人の 3 つの基本的態度
7. 動機づけに必要な 5 種類のチェンジトークと 4 つの基本スキル
8. メンタルヘルスを支える「自信」を構成する 3 つの主観
9. 健康生成志向によるいじめ予防と具体的対策方法(SMART)
- 10.子ども自身でもできるメンタルヘルストレーニング

参考文献

- ① 内田伸子(著)2017「子どもの見ている世界：誕生から 6 歳までの「子育て・親育ち」」春秋社
- ② 十一元三(著)2014「子供と大人のメンタルヘルスがわかる本：精神と行動の異変を理解するためのポイント 40」講談社
- ③ 清水将之(著)2014「子どものメンタルヘルス事典」日本評論社
- ④ 本間友巳(編著)2012「学校臨床：子どもをめぐる課題への視座と対応」金子書房

■レポート評価

- 1.テキストの内容・用語・概念を正しく理解していることが表れているか。
- 2.課題が要求している内容に沿って要点がまとめられているか。
- 3.テキストによる学習をとおして得た考察が示されているか。

*以下のようなレポートは再提出となる。

- 1.規程の分量が守られていない、あるいはレポートとしての体裁が整っていないもの。
- 2.ほとんどがテキストやインターネット上のサイトの丸写しであると思われるもの。
- 3.他の受講生のレポートと同じかほとんど類似しているもの。
- 4.誤字・脱字等が多いもの、日本語の文章として逸脱しているもの。
- 5.なぐり書き等書字が崩れており読解不能なもの。

■科目終了試験評価

- 1.テキストの内容・用語・概念を正しく理解していることが表れているか。
- 2.問題内容に的確に沿った解答であるか。
- 3.誤字・脱字等がなく、丁寧な字で書かれ、日本語の文章として誰もが理解できるものであるか。